

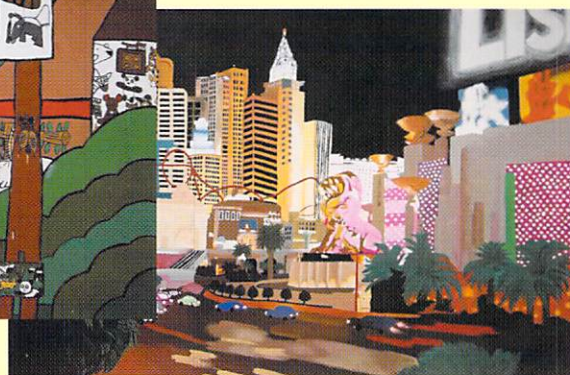
# 第24回東京都中学校美術教育研究大会

第3ブロック(中野・練馬・杉並)中野大会



## 大会紀要

**みんなの美術**  
～感動と創造は未来を拓く～



開催日：平成18年11月17日(金)

場 所：中野区立中野富士見中学校

# 大会紀要目次

中野区教育委員会教育長	沼口 昌弘	1
東京都中学校美術教育研究会会長	正留 久巳	2
第24回東京都中学校美術教育研究大会実行委員長	牧井 直文	3
大会要項と内容	吉田 諭司	4
基調提案	大島 秀信	6
研究の組織・研究の経過		7
記念講演	聖徳大学教授 遠藤 友麗先生	8
会場図（校舎各階平面図）		9
実践発表 練馬区立大泉学園桜中学校	塗木 興一	10
実践発表 杉並区立天沼中学校	青地 敏子	12
実践発表 杉並区立井草中学校	山中 潤子	14
実践発表 アートエデュケーショナル・プランナー	山内 舞子	16
研究授業 中野区立第三中学校	大島 秀信	18
研究授業 中野区立第四中学校	藤嶋 太一	20
研究授業 中野区立中野富士見中学校	志手 伸圭	22
研究授業 練馬区立石神井中学校	三浦 秀樹	24
研究授業 練馬区立上石神井中学校	黒田 一三	26
研究授業 杉並区立神明中学校	渋谷 里美	28
誌上発表 中野区立第九中学校	田中 千鶴	30
誌上発表 練馬区立豊玉中学校	高村 輝美	32
誌上発表 杉並区立高南中学校	高原 都	34
誌上発表 杉並区立東原中学校	林 智美	36
あとがき 研究大会副実行委員長	園田 俊雄	38
大会運営組織一覧		39
都中学校美術教育研究会開催地一覧		41

## ごあいさつ

中野区教育委員会教育長

沼口 昌弘



「みんなの美術～感動と創造は未来を拓く～」を研究主題に、第24回東京都中学校美術教育研究大会第3ブロック大会が、中野区において開催され、これまで精力的に取り組まれた研究活動の成果を発表されますことを、心から歓迎いたしますとともに、敬意を表します。

さて、文化芸術は、人々の暮らしに豊かさと潤いをもたらすとともに、賑わいと活気に満ちた地域社会をつくりだす創造的な活動といえます。そして、その活動を支える感性や能力を育てる中核となっているのが美術教育です。

中学校美術科の目標には「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的能力を伸ばし、豊かな情操を養う。」ことが示されています。また、美術では、話すことや文章を書くことだけに頼らないビジュアルという手段での交流が可能です。私たちはそのようなコミュニケーションの手段を獲得することで、生活様式や歴史文化等が異なる人々とも、時空を超えて心を通わせることができるのです。この美術を生涯に渡って愛好していく心情を育てるためには、学ぶ意欲とともに表現及び鑑賞の能力の確実な定着を図ることが必要になります。

本研究会が、この表現や鑑賞の基礎的能力を確実に身に付けていく指導を中心に捉え、一人一人の確かで豊かな体験に基づく子どもの心に響く美術教育の研究実践に取り組まれていることは極めて意義のあるものです。

本研究会の提案のもと、子どもたちが「思い通りに表現できた」という自己表現の感動をたくさん味わい、新たな発想や価値を創造していくことを期待しています。そのことが、子どもが夢や希望をもち、様々な人々と心を通わせながら未来を切り拓いていくことにつながると確信しています。

最後になりましたが、大会の開催に当たりまして、御尽力いただきました皆様方に心から感謝申し上げますとともに、東京都中学校美術教育研究会が益々発展されますよう、心から祈念いたします。

## ごあいさつ

東京都中学校美術教育研究会

会長 正留 久巳



平成18年度、第24回東京都中学校美術教育研究会第3ブロック中野大会の開催にあたり一言ご挨拶申し上げます。

都中学校美術教育研究会は、学校教育における美術の果たす役割の重要性について常に考え、研究を進めてまいりました。子ども達が、心豊かに生きる力を身につけることは、都民の願いでもあります。また、変化の激しい現代社会において、力強く生き抜くためには、自ら主体的に学ぶ意志、能力、態度などの自己教育力を育成し、問題解決のための実践的態度を培うことが、依然として学校教育の重要な課題であります。

学校教育は、生涯学習の基礎づくりの場でもあります。学校においては、その発達段階に応じて必要な学習体験や、その年代に身につけておかなければならない資質・能力を育成し、生涯にわたり学んでいこうとする意欲と能力を育てることが求められています。これらは、美術教育の目標でもあります。

美術教育は、表現や鑑賞などの幅広い活動を通して、自分を見つめたり、工夫することを学んだり、他の良さを感じ取ったりする中から、感性を豊かにし、豊かな情操を養い、人間形成の根幹をなす極めて重要な働きをもっています。これからの時代、人が、より人らしく生きるために、他の文化を理解し、他者を理解し、ものの本質を見極められることが、更に大切になるだろうと思います。これは、形、色、材料で、自分の考えや心を表現する活動を、体験的に積み上げてこそ、涵養できうるものであります。

美術教育に求められている、資質や能力を身につけさせられるよう、鋭意、指導法や題材開発をおこなうと同時に、高い専門性を持ち、教科のねらいを明確にした指導にあたることが大切です。このことは、将来にわたり、子どもたちに培うべきものが、美術教育でしか成しえない内容であるからです。これを、携わる我々が十分に認識してかかるべきと思います。「なぜだろう」「どうしたらもっと良くなるだろう」といった欲求は、誰しもがもっているものです。同時に「きれいだな」という根源的な感受性や美的欲求も皆持っているものです。生徒は課題を具体化していく表現活動の中から、様々なことに気付き変容していきます。本研究大会は、「みんなの美術～感動と創造は未来を拓く～」を掲げました。生きる力を身につけた望ましい人間形成を果たすためには、美術の活動が必要であること、それをいかす魅力ある授業の在り方を追求した研究となっています。第3ブロックの各美術教育研究会のみなさまの本大会に向けた情熱と精力的な取り組みに敬意を表します。

最後になりましたが、本研究大会の開催にあたり、東京都教育委員会、そして中野区、杉並区、練馬区の教育委員会をはじめ中学校校長会、教育研究会、各関係機関にはご支援を賜り誠にありがとうございました。また、中野区立中野富士見中学校には、会場校として、多大なご協力をいただきました。心より感謝申し上げます。

## ごあいさつ

第24回東京都中学校美術教育研究大会  
実行委員長 牧井 直文



この度、ご来賓の皆様並びに多数の先生方をお迎えし、第24回東京都中学校美術教育研究大会・第3ブロック中野大会が開催されますことを、大変喜ばしく、また、意義あることと感じております。

さて、このところ多くの学校が「授業改善」を重要課題として掲げ、校内研修の充実を図るなどして授業力向上に力を入れてきています。昨今大きく取り上げられつつある「学力低下問題」がその背景にあり、教育改革が進行する中で「確かな学力」を中心に据えた実践が学校現場に広がっています。

こうした状況は、美術の先生方にとっては何か少し距離感のある問題のように捉えられがちです。しかし、現実には「美術は苦手」という生徒の訴えはどの学校にも多く、「美術の授業にどう取り組ませたらよいのか」という保護者の声も耳に入ります。美術科においても「授業改善」は大きな課題であり、先生方の教科指導力の向上が期待されています。

本日、ご講演をいただきます遠藤友麗先生は、「美術としての教科性を明確にし、説得力のある教育をしていかなければならない」とおっしゃっています。もしも、教師自身の個人的な価値観や、教師が身に付けている専門性の強い技能指導に偏って授業が行われるとしたら、すべての生徒を対象とした公教育としての美術教育ではなくなってしまいます。本大会のテーマである「みんなの美術」には、このような美術教育のあり方、授業改善への思いや決意などが込められています。ぜひ、本大会の研究の成果をもとに、表現や鑑賞の実践的指導をとおして、美術教育の基礎・基本を確実に定着させ、生徒たちの創造的な能力の伸長に取り組んでいただきたいと思います。

学習指導要領改訂への動きも、具体的な内容へと移りつつあるそうです。中学校美術教育の一層の充実を目指し、誰もが学ぶべき美術としての教科性をより確かなものとするため、「みんなの美術」をテーマとした本大会の成果を今後に生かされることを期待します。ご参会の皆様のご活躍をお祈り申し上げ、挨拶とさせていただきます。

## 一 大会要項と内容 一

(1) テーマ 「みんなの美術 ～ 感動と創造は未来を拓く ～」

(2) 開催日 平成18年(2006年)11月17日(金)

(3) 会場 中野区立中野富士見中学校  
中野区弥生町5-11-16 Tell 03-3381-7270

(4) 主催 東京都中学校美術教育研究会  
会長 正留 久巳(日野市立平山中学校長)

(5) 主管 第3ブロック(中野・練馬・杉並)  
各区中学校教育研究会 美術部会  
実行委員長 牧井 直文(中野区立中野富士見中学校長)

(6) 後援 東京都教育委員会  
東京都中学校長会  
中野区・練馬区・杉並区教育委員会  
中野区中学校長会・中野区中学校PTA連合会

(7) 時 程

11:00	11:25	12:25	13:25	14:25	14:40	15:20	15:30	15:50	16:50	17:00
受 付	実践発表 (60)	休憩	研究授業 (50)	休憩	研究協議 (40)	休 憩	全体会			
							開会 (20)	講演 (60)	閉会 (10)	

(8) 実践発表 11:25～12:25 場所 体育館

① 板金レリーフ『動物絵皿』

発表者 練馬区立大泉学園桜中学校 教諭 塗木 興一

② 動物のイメージの守り神(埴輪)

発表者 杉並区立天沼中学校 教諭 青地 敏子

③ 心の目で円を描く

発表者 杉並区立井草中学校 教諭 山中 潤子

④ 「31枚目の動植絵」伊藤若沖「動植絵」

発表者 アートエデュケーショナルプランナー 山内 舞子

(9) 研究授業 13:35 ~ 14:25

- ① 「皮革レリーフ」デザイン画の鑑賞  
(場所-1年A組 教室) 授業者 中野区立第三中学校 教諭 大島 秀信  
助言者 教育庁指導部 義務教育心身障害教育指導課  
指導主事 岩崎 治彦
- ② 紙粘土を使った彫刻「自然物の模刻(着彩)」  
(場所-美術室) 授業者 中野区立第四中学校 教諭 藤嶋 太一  
助言者 町田市立木曽中学校長 篠原やよい
- ③ 自画像(デッサン)  
(場所-2年A組 教室) 授業者 練馬区立石神井中学校 教諭 三浦 秀樹  
助言者 西東京市立田無第一中学校長  
北中美会長・都中美副会長 大野 雅生
- ④ 螺鈿工芸の導入とアイデアスケッチ  
(場所-コンピュータ室) 授業者 杉並区立神明中学校 教諭 渋谷 里美  
助言者 聖徳大学児童学科教授・女子美術大学客員教授  
元文部科学省主任視学官 遠藤 友麗
- ⑤ ペーパークラフト～紙から生まれる想像の世界～  
(場所-3年A組 教室) 授業者 練馬区立上石神井中学校 教諭 黒田 一三  
助言者 元稲城市稲城第六中学校長 森田 勝也
- ⑥ 「空想画」  
(場所-3年B組 教室) 授業者 中野区立中野富士見中学校 教諭 志手 伸圭  
助言者 元八王子市立長房中学校長 入谷 弘

(10) 全体会・講演 15:30 ~ 17:00

- ① 開会の言葉
- ② 主催者挨拶 都中学校美術教育研究会会長 日野市立平山中学校長 正留 久巳
- ③ 実行委員長挨拶 大会実行委員長 中野区立中野富士見中学校長 牧井 直文
- ④ 来賓祝辞 中野区教育委員会教育長 沼口 昌弘
- ⑤ 来賓紹介
- ⑥ 基調提案 中野区立第三中学校 教諭 大島 秀信
- ⑦ 講演 「心と実生活を豊かにする美術教育へ」  
聖徳大学児童学科教授・女子美術大学客員教授  
元文部科学省主任視学官 遠藤 友麗
- ⑧ 謝辞 大会副実行委員長 中野区立中野富士見中学校副校長 池田 浩二
- ⑨ 次回大会実行委員長挨拶 板橋区立上板橋第一中学校長 新保 邦明
- ⑩ 閉会の言葉

# 基調提案

## 1 研究主題

### 『みんなの美術』 －感動と創造は未来を拓く－

#### 2 研究主題の設定

今「生きる力」を育む多様な学力として「確かな学力」の定着が求められ、多くの学校で授業改善に向けた取り組みが進められている。美術科としても、こうした状況を今までの授業実践を見直す契機として捉え、「美術の授業を通して身に付けたい力は何か」という基本的な視点に立ち返り、目指すべき美術の学力についてのコンセンサスを確立していく必要がある。そして、すべての生徒に美術科としての基礎・基本をしっかりと身に付けさせられるよう、授業の充実・改善に努めていかなければならない。

学習指導要領の美術の目標には「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的能力を伸ばし、豊かな情操を養う。」とあり、指導内容として「表現」と「鑑賞」の領域が示され、「表現」は「絵や彫刻など」「デザインや工芸など」の2つの分野にまとめて扱われている。

この、美術科の目標や内容を改めて踏まえ、「確かな学力」を見据えながら、どのように指導すれば生徒が将来にわたって美術を愛好する姿勢をもつようになるのか、ということについて考えた。

##### (1) 基礎・基本の定着

教科の基礎・基本を身に付けることは、生涯にわたって学び続けるための必要条件であり、自らの学びのスタートラインに立つことであるといえる。美術科における基礎・基本の確実な定着は、美術という教科の根幹を成す必修教科の授業の充実によって成し遂げられる。今、そのための授業展開の工夫や指導法の改善が期待されている。

##### (2) すべての感覚を使った創造的な活動

生活体験の不足やテレビゲームに代表されるバーチャルリアリティーの問題に見られるように、今日の子どもを取り巻く環境は心身の健全な発達にとって楽観視できないものとなっている。美術の授業では、生徒はそれぞれの実体験を基に作品を制作する。学校で学んだこと、生活の中で体験したこと等から作品が生まれてくる。材料の持つ様々な手触りを確認しながら制作することができ、しかも、知的に考え自分なりの形にまとめるという一連の学習は、美術以外の教科では成し難いものがある。すべての感覚を使い、創造的に活動することこそ、今最も求められていることではないかと考えられる。

##### (3) 生涯にわたる活動

生涯にわたって美術を愛好する姿勢を身に付けさせるためには、題材設定の工夫や個を生かすきめ細やかな指導によって意欲をもたせ、制作の喜びを味わわせることが必要である。日頃の授業に対する一つ一つの工夫や改善により生徒の心に響く活動を実践し、美術の楽しさや幅広さに触れさせて、美術に親しむ心情や豊かな感性を育てていくことが求められる。

上記の3点を押さえたうえで、美術科における「確かな学力」とは何かを考えると、美術科の特色である「作品制作の過程での感動する心や想像する力の育成」「様々な美術文化を感動しながら鑑賞する力、鑑賞後に新たな想像力を使って再構築する力の育成」といったことがあげられるのではないか。これらの力がすべての生徒に備わることで、創造的な世界への理解が広がり、造形的なものも見方も育ってくると思われる。感動や創造を通して、生徒たちが将来にわたって美術を愛好することができるようになり、心豊かな生活を送れるようになるとの考えに立って、今大会の研究主題を「みんなの美術～感動と創造は未来を拓く～」と設定した。

## 3 研究主題への迫り方

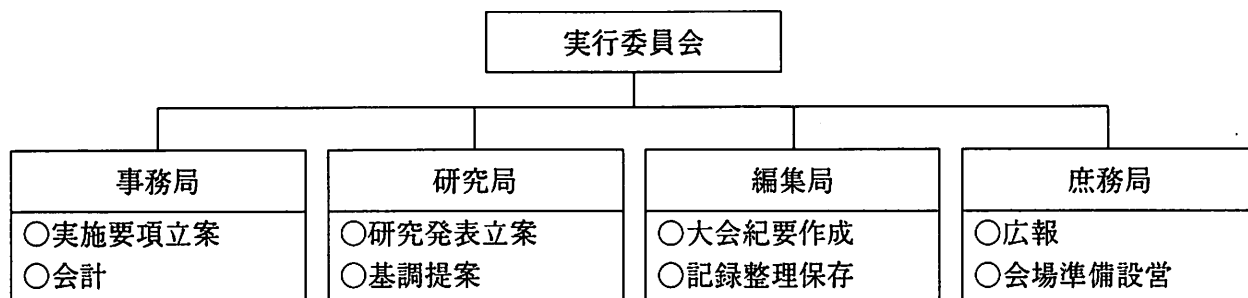
教師は、授業の中で生徒と向き合うことで常に新たな課題を発見する。この研究では、それぞれの課題解決を目指した授業実践を取り上げ、美術科の指導内容のすべてに踏み込み、必修教科としての授業のねらいや構成の明確化に努めた。

「表現」の内容では、豊かに発想し構想する活動を工夫し、主体的に表現する能力の伸長や創造性を育む学習について考えた。また、「鑑賞」の内容では、作品のよさや美しさを味わう鑑賞力を高め、生涯教育としての鑑賞学習の在り方について探った。

未来の担い手である生徒たちすべてが、美術に親しみ、創造の喜びや、その価値について知り、人間らしい豊かな感性を育むことができるようにと願いつつ、今大会の研究主題に迫ることにした。



#### 4 研究の組織



#### 5 研究の経過

<平成17(2005)年度>

実施月日	研究部会	研究内容
1月12日	中野区美術研究部会	○準備委員会 ○研究組織及び内容検討①
2月26日	中野区美術研究部会	○準備委員会 ○研究組織及び内容検討②

<平成18(2006)年度>

実施月日	研究部会	研究内容
4月26日	中野区美術研究部会	○研究計画及び研究組織検討 ○研究主題及び大会要項・内容検討
5月25日	第1回実行委員会	○研究計画及び研究組織検討 ○研究主題及び大会要項・内容検討
6月1日	第2回実行委員会	○研究発表会に向けて① ・研究計画及び研究組織確認 ・研究主題及び大会要項・内容確認
7月4日	第3回実行委員会	○研究発表会に向けて② ・大会時程の変更確認 ・第1次案内提案
7月25日	第4回実行委員会	○研究発表会に向けて③ ・予算配当、紀要原稿依頼 ・研究授業及び実践発表打合せ
9月7日	第5回実行委員会	○研究発表会に向けて④ ・各局部会進行状況確認 ・研究授業及び実践発表内容確認
10月5日	第6回実行委員会	○研究発表会に向けて⑤ ・各局部会進行状況確認
11月8日	第7回実行委員会	○研究発表会に向けて⑥ ・大会内容等の確認
11月16日	第8回実行委員会	○研究発表会に向けて⑦ ・前日準備
11月17日	研究発表会	○研究発表 ○講演 「心と実生活を豊かにする美術教育へ」 聖徳大学児童学科教授 女子美術大学客員教授 元文部科学省初等中等教育局視学官 遠藤 友麗 先生
12月22日	第9回実行委員会	○大会報告書の作成
1月	第10回実行委員会	○本大会のまとめと来年度への申し送り

# 記念講演

【講師】 遠藤 友麗 先生

【演題】 「心と実生活を豊かにする美術教育」

【要旨】

## 1 美術教育で大事にしていくべきこと

先般、ベネッセ教育研究所が全国の親に意識調査をした。「どのような教科の学習が大事か」という質問に対して、受験教科はすべて「大切であり重視すべき」と答えている。体育については7割、音楽も6割が「大事だ」と答えている。しかし、図画工作・美術については3割の人しか大事だと答えず7割の人が「無くてもよい」と考えている。

◎今後美術教育で育てるべきことは次の5つある。

- (1) 豊かな内心の涵養
- (2) 美しく豊かな発想や想像力の育成
- (3) 表現方法・技法の確かな獲得
- (4) 他者との協働による美の創作活動
- (5) 文化の理解・教養の教育。

## 2 美術の「評価力」の涵養

図画工作、美術の評価はよく「教師が替わると評価も変わってしまう」と言われる。極力、その教師独自の主観的評価ではなく、客観的な評価ができるよう研究に務める。始めに育成すべき資質・能力、経験等を明確にし、その成果を的確に評価していくことが大切。

## 3 日々の生活を心豊かに美しく構成する「美術の生活化」を

【講師紹介】

遠藤 友麗 (えんどう ともよし)

聖徳大学人文学部児童学科 教授

女子美術大学客員教授・大学院講師

1943年(昭和18年)1月 横浜市に生まれる

東京芸術大学 美術学部絵画科日本画科 卒業

東京都の公立中学校教師 板橋区教育委員会指導主事

東京都教育委員会指導主事

昭和63年文部省教科調査官として入省(美術教育担当)

\*平成元年及び10年の2度にわたり学習指導要領の改訂を行う。

平成9年より文部科学省初等中等教育局視学官となり、幼稚園・小・中・高等学校までの全教科の学習指導要領作成及び文部科学省の教育課題や施策の設定・全国の指導に関わる。

平成8年に日本感性教育学会設立・平成14年「文化芸術振興基本法」の制定に関わる。

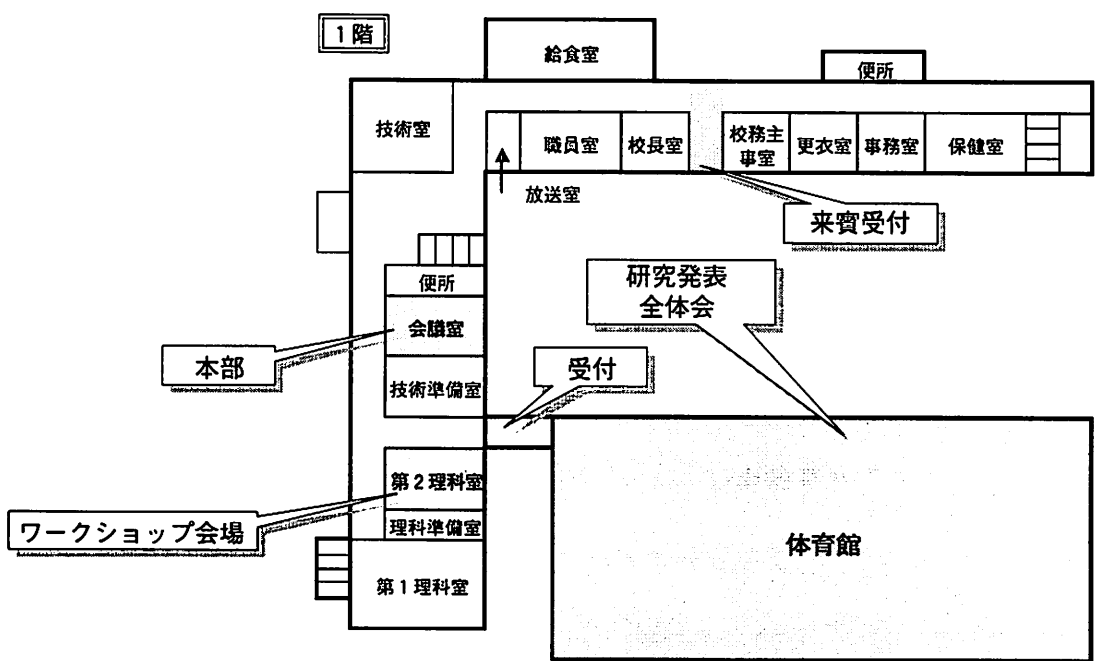
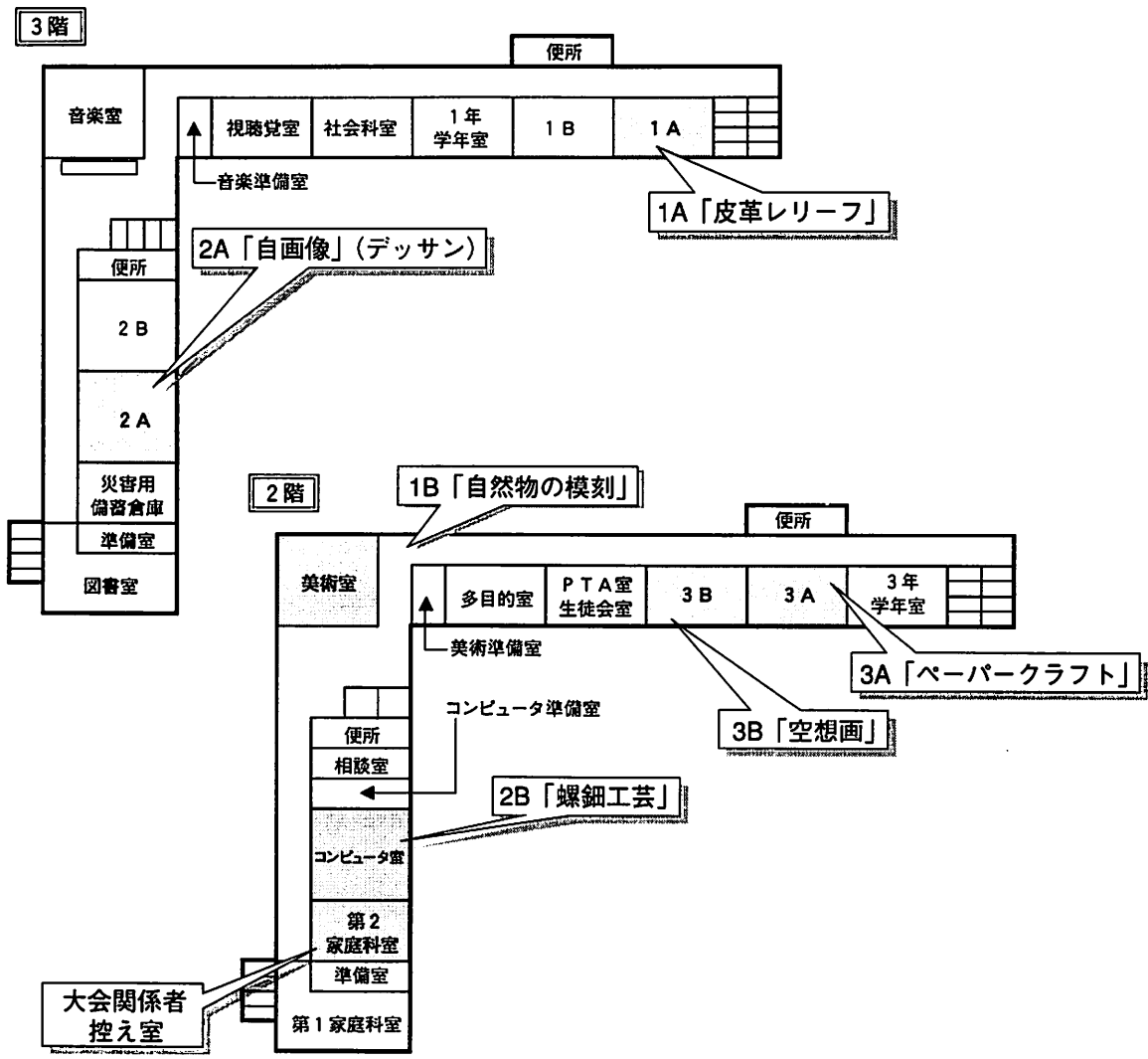
平成6年より13年まで 東京芸術大学大学院・東京造形大学非常勤講師

平成14年より現在まで 女子美術大学大学客員教授・大学院非常勤講師

平成15年3月文部科学省退官。同年4月より聖徳大学教授



# 校舎案内図



学校名	練馬区立大泉学園桜中学校		氏名	塗木 興一			
テーマ	みんなの美術 ～感動と創造は未来を拓く～						
領域	工芸	題材	板金レリーフ『動物の絵皿』	学年	2 学年	時間	8 時間

<題材設定の理由>

板金の作品はあまり目にすることが多くなく、普段経験できない表現方法であるが、実際に体験してみると、金属が意外に柔らかく、打つとのとびて変形していく面白さに生徒たちは夢中になる。板金が伝統工芸として古くから使われていることや、その繊細な表現のよさを理解させながら、自分なりの板金作品を作らせたい。

<指導のねらい>

- ①板金レリーフの表現を理解させる
- ②表現にあった道具の使い方を理解させる。
- ③研ぎ出しによる明暗表現を理解させる。

<学習の展開と留意点>

	学習の内容	指導の留意点
導入	教科書や参考作品を見て、板金レリーフの技法に興味を持つ。	・教科書の参考作品を見ながら、板金レリーフの繊細な表現の可能性に気付かせる。
展開	<p>制作の流れをつかむ。</p> <p>①動物の絵をスケッチする。</p> <p>②構図を考えながら実物大で原画を描く。</p> <p>③カーボン紙を使って、原画を銅板に写す。</p> <p>④針打ちたがねを使って、輪郭線の上を軽く打っていく。</p> <p>⑤大まかな立体表現</p> <p>⑦裏返して、砂袋の上に置き、いもづちやしゅもくづちで打ち、徐々に凹凸を出す。</p> <p>④表にして、定盤の上で打ち、余分な凹凸をならしていく。</p> <p>⑦と④を繰り返しながら立体表現をする。</p> <p>⑥細部の表現 各種のたがねを使い分けながら細部の表現をする。</p> <p>⑦研ぎ出し</p>	<p>・初めに①～⑥までの製作過程を板書して、ノートをとらせながら、板金制作の全体をイメージさせる。</p> <p>・動物の絵は図鑑や写真集を模写させる。</p> <p>・道具の名称を覚えさせ、適切な使い方を説明する。</p> <p>・レリーフは立体的に見せる絵（見せかけの立体）である事を強調して、あまり高肉にならないように助言する。</p> <p>・輪郭の立ち上がりはたがねを使って、シャープに輪郭線を出すように助言する。</p> <p>・研ぎ出しをすることで、絵がより立体的になり、奥行きがでることを理解させる。</p>

⑦打ち終わった皿を洗剤で洗って、油汚れなどを除く。

⑧硫黄成分を含んだ液に浸し、適度の黒さになったらひきあげて水洗いする。

⑨コンパウンドを布につけて磨きながら、明暗表現をする。

⑩錆止め処理

うすく溶いたニス等を布に浸け全体を拭く。

- ・コンパウンドは少量を布に付けて、明るさを見ながら研ぎ出すようにさせる。
- ・バックの打ち出し模様も研ぎ出すことで効果が出ることに気付かせる。

### <まとめ>

板金は、金属を打つことで形をつくるので、一見粗っぽい技法に見えるが、実は繊細さと忍耐強さが要求される仕事である。ゆっくりと慎重に取り組ませたいといつも思う。しかし、力任せに銅板をひっぱたいてしまう生徒がいる。その結果、まるで林檎を半分に切ったような、肉厚の立体物を皿の底に盛り上げてしまう。レリーフは見せかけの立体感を表現した絵であるということを毎回確認するようにしているが、これを理解することはなかなか難しい。重なりによる遠近表現などを例にあげて凹凸の加減を理解させるなど、細かい注意をしている。また、研ぎ出しという技法のよさも、明暗表現という視点で理解させるようにしている。

### <作品例>



### <評価>

(ア)美術への関心・意欲・態度

- ・板金打ち出しの表現方法に関心を持ち、意欲的に制作しようとしている。

(イ)発想・構想の能力

- ・豊かに発想して絵を構想することができる。

(ウ)創造的な技能

- ・効果的なレリーフの表現ができる。
- ・研ぎ出しの効果を理解して表現することができる。

学校名	杉並区立天沼中学校		氏名	青地 敏子			
テーマ	みんなの美術 ～感動と創造は未来を拓く～ 心の中にある見えざる神への想いを込めた造形作品の制作						
領域	工芸	題材	動物のイメージの守り神（埴輪）	学年	1学年	時間	6時間

### <題材設定の理由>

素焼きのテラコッタは赤茶色の原始の色である。原始や古代の時代からさまざまな造形物を生み出し、歴史に残してきた人類の想いや願いはどんなものに向かっていったのだろうか。考えてみるだけで神秘さを伴った想いを巡らせることができる。生活との関わりから離れて、神への捧げ物や死者へのまじないの意味を込めて造られた造形物のひとつとしての「埴輪」からは永遠なものへの憧れを感じ取ることができる。守り神の概念は個々によって多様であるが祖先の創造性豊かな表現を受け継いでこのような土の造形をすることの意味を考えさせたい。

### <指導のねらい>

テラコッタという素材に親しみ、心の中にある見えざる神への想いを込めた造形作品に仕上げる。

「埴輪」の成り立ちを理解し、動物のイメージへと繋げていく。

守り神への思い入れを作品完成まで持続させる。

### <学習の展開と留意点>

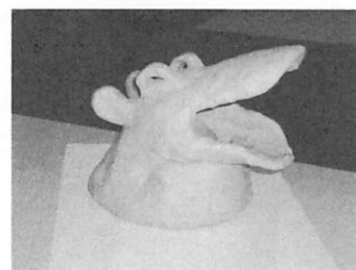
時間 ( )	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価の 観点	評価の 方法
導入 (1)	「埴輪」の写真及び見本の作品を見せる。教科書「のこされた造形」の説明をする。	「埴輪」の成り立ちなどの板書を見て、「埴輪」からそれぞれの自分の守り神について考えを発展させていく。	原始の造形に関心をもたせるように具体的な説明をし、守り神についての個々の概念について理解させる。	関心 意欲	観察 発表
展開 (2)	「動物のイメージの埴輪」について説明をする。構想のスケッチから陶芸作品の仕上がり図までの過程をわかりやすく図で示して説明をする。  1kgのテラコッタ粘土を使い、「ひもづくりの輪積み」の方法で円筒を作っていく。	「埴輪」の成り立ちと動物のイメージとの繋がりについて考えさせる。 1. 図鑑などを見て守り神(埴輪)にしたいと思う動物を選んでいく。 2. 動物のスケッチをできるだけ正確に描く。 3. スケッチをもとに守り神としての「埴輪」の構想をし、下絵図案にする。陶芸作品としての仕上がり図を正確に描かせる。  テラコッタをたたいて中の空気を追い出し、球形にする。中指位の太さのひもを作りドーナツ状の輪を作る。同じ太さ同じ大きさの輪を作り、「ひも作りの輪積み」の方法で空洞の円筒を作っていく。 輪積みではしっかりと接着をする。	守り神についての概念と動物のイメージの埴輪(死者へのまじないとしての)との関連について適切な助言を与えながら構想をさせていくことが大切である。守り神としての思い入れについての助言も与えてじっくりと考えさせた上で下絵を仕上げさせる。「赤土の円筒」という埴輪のそもその意味も考えつつ、しっかりとした図案を描かせることがテラコッタ粘土で作りにくいときの手がかりとなることを理解させる。  黄土色のテラコッタは火を加え焼成すると赤茶色に変化し全体に一割程度縮むということを入れて制作に向かわせる。「ひも」が細すぎると積んでいくうちに重みでつぶれることに注意する。  輪の内側1/3程度をつぶして1段ごとにしっかりと接着することが大切なポイントであることを理解させる。	関心 意欲 発想や 構想の 能力  工夫する 能力	観察  発想や 構想の 過程  下絵図 の作品

展 開 (3)	円筒の上部をさまざまな方法で塞いだり、つぼめたりしていく。	滑らかに仕上げたい部分がある場合は仕上げにセーム皮を使う。イメージした動物によってそれぞれ細長い円筒や楕円形で低い高さの円筒などが、輪を次第に小さくして上部を慎重に塞いだりつぼめたりする作業をする。ここでヘラなどを使用する。	塞いだりつぼめたりした部分がイメージした動物の構想図にしたがって『背』の部分となるのか『頭』の部分となるのか再確認させて作業することが大切である。	関心 意欲  創造的な技能	観察  作品の 制作過程
	頭や顔の部分を作る。	イメージした動物の埴輪の大切な部分なので、丁寧に慎重に構想図を見ながら作業を進める。ヘラや針金（クリップを伸ばしたものを使いやすい）を駆使して作業する。	動物の頭部は体に比較して小さいということを確認し、小さめを意識させる。焼成したときに割れるのを防ぐ為頭部は必ず空洞に作ることを注意する。割れにくくするため、さらに埴輪のイメージのため、針金できれいにくりぬく事が大切であることを指導する。		
	体全体の文様や装飾の部分を作る。	全体の文様などはヘラや木グシを使用してリアルに作っていく。接着や装飾の部分は「ドベ」（手のひらに少量の粘土と水をのせてドベをつくる）で接着しヘラできれいにならす。	テラコッタの素焼きでは釉薬をつけないため、ヘラや木グシの跡や加飾の部分がそのまま表現されるので成型の作業には慎重さが要求されることを理解させる。		
	滑らかに仕上げたい部分がある場合は仕上げにセーム皮を使う。	セーム皮を水でぬらして、ヒビやシワの部分の補修をして滑らかに仕上げる。	ヘラや木グシの跡など痕跡を残したい場合はあえてセーム皮を使用しなくて良いことを伝える。		
まとめ	それぞれの仕上がった作品をお互いに鑑賞し合う。	仕上がった作品のそれぞれの良さや工夫した点を認め合い鑑賞したことを発表する。	動物のイメージの守り神としての作品ができているかどうか味わわせる。	関心	発表 作品

<題材の評価（観点別）>

観点1；[関心・意欲・態度]

- ・導入（原始の造形への関心）
- ・発想し構想する意欲、態度
- ・作品制作過程での意欲、態度
- ・完成した作品への関心の持ち方



観点2；[発想や構想の能力]

- ・動物のイメージの守り神がどのように埴輪の仕組みと繋がるか理解した上で構想図案を示すことができたか。

観点3；[創造的な技能]

- ・テラコッタの素材について理解し、構想した図案をもとに埴輪の仕組みを念頭に入れた作品作りができたか。

観点4；[鑑賞の能力]

- ・完成作品が、目標に合ったものに仕上がっていることを鑑賞し合えたか。

学校名	杉並区立井草中学校		氏名	山中 潤子			
テーマ	みんなの美術 ～感動と創造は未来を拓く～						
領域	デザイン	題材	心で目で円を描く	学年	1 学年	時間	8 時間

### <題材設定の理由>





1 学年最初の題材として、色彩の学習を行います。光や絵の具の色彩の理論を学び、新しい絵の具を使ってワクワクする気持ちで作品に向かいます。

自分らしく豊かに発想し構想を練り、心で目をしっかり見開き感性を研ぎ澄ませて一つの円の中をのぞきます。何も無いところからイメージして形を創り出す事に困難を感じる生徒も多い年齢です。色彩や筆のタッチの形から発想して自分らしい表現の世界が見えてくるように設定しました。


### <指導のねらい>

色彩表現の楽しさに気づき、自分の心の世界で感じたものを素直に表現する。表現に合わせた色や形の多様な表現方法を工夫し、色彩と感覚・感情の関係など色彩表現の基礎的事項について気付かせる。

### <学習展開と留意点>

	学習活動の流れ	指導上の留意点
導入 1 時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴッホの作品「星・月・夜」とゴッホのタッチを模写したビデオを鑑賞する。(NHK日曜美術館ゴッホ展の紹介)</li> <li>・実際に筆で色々なタッチを表現してみる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆作品の中の星の部分は、ゴッホが星を見ながら描いたものではなく天文学の本から形のヒントを得ているところに注目させる。</li> <li>◆9色の色を使い、筆のタッチを工夫しているところに注目させる。</li> </ul>
展開 1 ・ 3 時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケント紙に円を作る。</li> <li>・スケッチブックに色彩と筆のタッチを練習してみる。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>「海と崖」</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>「月光」</p> </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タッチを工夫しながら、その形から発想が広がっていく。</li> <li>・紙の周りに、発想を言葉に書きとめる。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>「虹の精の足あと」</p>  </div> <div style="text-align: center;">  <p>「海の日」</p> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆円の中を心で目で描いていく姿勢づくりについて指導する。</li> <li>◆発想に合わせたタッチの形を工夫させ、形によって伝える感情が違うことに気付かせる。</li> <li>◆色彩の学習を思い出し、混色の方法を工夫して沢山色を作るようにさせる。また、構想に合わせて類似色や色相・明度・彩度・グラデーションの基本的な内容を理解させる。</li> <li>◆なかなかイメージが決まらない生徒は、好きな色で好きな形のタッチを円の中に置いていく過程より発想を広げさせる。</li> </ul>



<p>展開 2 ・ 3時間</p>	<p>表現したいイメージの場面を言葉で表し、具体的に書いてみる。</p>  <p>「夕やけに映える 山の紅葉」</p> <p>「山奥の滝」</p> <p>「秋の小川」</p>	<p>◆授業の始めに、友達作品を紹介していく。特に言葉でイメージを伝える例をいくつか参考にして、自分の作品を深めていく。</p> <p>例1「夕方、秋、山がかすんでいる紅葉した葉が地面に集まっている。」</p> <p>例2「力強いかんじの滝の音、夏。」</p> <p>例3「おおらかで少し激しく、紅葉した葉が透き通った小川を流れていく。」</p> <p>◆イメージを形や色で表現させる。 机間指導して具体的に言葉からくるイメージを言葉がけしながら作品を完成させる。</p>
<p>まとめ 1時間</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス全員の作品を黒板に並べ、お互いの作品を鑑賞する。</li> <li>・作者の表現意図を言葉で伝えながら鑑賞し、感想を述べ合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆友だちの作品の良いところを見つけ、発表させる。</li> <li>◆色彩の学習で学んだことをまとめながら作品から確認していく。</li> </ul>

<まとめ>

生徒たちの様々で豊かな感性に触れることができたような気がする。一つの円を見つめる中から、体験的に得た感性が蘇って見えてくる作品もあれば、一つの色や形のきっかけから新しい世界が創られていく作品もあった。

コミュニケーションが苦手な生徒たちも、作品を通して作者の想いを感じることができるとや、伝え合うことの喜びを知って欲しいと思う。

<評価>

①美術への関心・意欲・態度

作品の色彩に興味をもち、色の性質や感情を理解しようとすることができる。

製作に意欲的に取り組み、配色や形を工夫して表現することができる。

②発想や構想の能力

表現のテーマを発想し、色や形の性質や感情、組み合わせを構想し表現することができる。

③創造的な技能

色の三属性や、色から感じ取ることのできる性質や感情を理解して構成することができる。

④鑑賞の能力

ゴッホの作品を鑑賞し、色彩の用い方の工夫に気付くことができる。

友だちの作品を鑑賞し、良さや美しさ創造力の豊かさを味わい、自分の意見や印象をもち、見方や感じ方を深めることができる。

学校名	アート・エデュケーション・プランナー	氏名	山内 舞子				
テーマ	みんなの美術 ～感動と創造は未来を拓く～						
領域	B鑑賞	題材	「31枚目の動植綵絵」 伊藤若冲「動植綵絵」	学年	3学年	時間	2時間

### 1 題材設定の理由

伊藤若冲は今日最も注目されている江戸時代の画家の一人である。従来、鑑賞の授業においてはひとつの作品をじっくりと見て、その結果得たものを言語化するということが多く行われてきたが、圧倒的な画力と美的感覚をもつこの画家の作品を鑑賞するためには、このようなスタイルよりもむしろ作品群と対峙し、この作家の個性を大きな枠で捉えていくほうがその魅力を体感できるのではないかと考えた。

さらにその結果得たものを表現するには、感想文などで個々の思いを表出するのではなく、視覚的な表現を用いることによって作品鑑賞の醍醐味を参加者全体が共有できるような内容にしたいと考えた。

### 2 指導のねらい

鑑賞の対象となるのは伊藤若冲の代表作「動植綵絵」である。授業でははじめにこの作品の鑑賞を行い、そこから読み取った造形的特徴を個人個人がそれぞれ一枚の画面の上に出していく。これはいわば解釈の造形化ともいえる行為であり、その結果表現されたものを発表を通じて共有することにより、同じ対象に対しても一人ひとり異なる解釈があるということを実感することができる。この活動では、模写とは異なり意図する造形的特徴さえ表現されていれば、その画力にかかわらず評価の対象となる。また、従来の鑑賞の授業では感想文などがその評価の対象とされることが多かったため、文章が上手な生徒が高評価を得やすいという状況があったが、今回実施する方法では文章があまり得意でない生徒も評価を得る機会が与えられている。

### 3 学習の展開と留意点

活動は大きく3つの段階によって構成されている。

#### 第1段階

- 1) 伊藤若冲の連作「動植綵絵」の図版セット(30枚)を配布する前に、この作品群に共通して見られる造形的特徴をひとつ以上読み取ることが、第1の活動であることを説明する。
- 2) 図版セットを配布後、「動植綵絵」をしばらく眺めたり、似ているものどうしを並べ替えさせたりしてその造形的な特徴について頭の中で整理させる。

#### 第2段階

- 1) 第2段階は軽めの制作活動である。
- 2) 個々が読み取った造形的特徴についてはこの段階では言語化させない。
- 3) 一人一枚ずつ紙を配り、自分が伊藤若冲だったら31枚目の動植綵絵はどのようなものを制作するかという想定のもとに、絵を描かせる。なおこの際に、作品鑑賞の時点で読み取った造形的特徴を画面の中に反映させることを指示する。

### 第3段階

- 1) 第3段階は制作した作品の発表である。
- 2) 発表の際、生徒が述べなければならないことは次の2点である。1点は「第1段階で自分が伊藤若沖の「動植綵絵」から読み取った造形的特徴について」、もう1点は「第2段階で行った作品制作において、それがどのように作品に反映されているか。」
- 3) 画力が優れていても、以上の2点が明確でない場合は評価の対象とならない。逆に、技術的に優れていないものでも、「構図」や「色の塗り方」など、意図するものが表現できていれば評価の対象となる。

### 4 まとめ

授業は10月18日に中野区立第四中学校で実施。(授業協力者藤嶋太一)

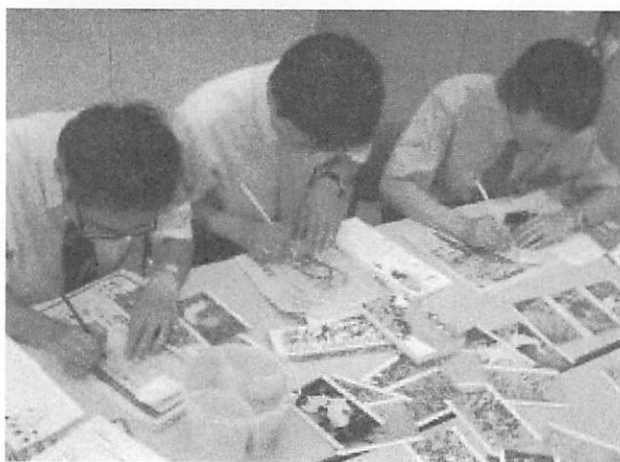
### 5 評価

#### 1) 関心・意欲・態度

- ①作品図版どうしの比較や分類を通じてその造形的な特徴を捉えようとしているか。
- ②限られた時間のなかで、効率よく作業を進めていこうとする態度がみられるか。
- ③他の生徒の発表をしっかりと聞くことができているか。

#### 2) 鑑賞の能力

- ①伊藤若沖の「動植綵絵」にみられる造形的特徴を見つけ出すことができるか。
- ②鑑賞の結果気付いたものが作品制作に反映されているか。
- ③自分が制作した作品を説明する際、色やかたちに関して具体的な言葉ももちいて説明することができるか。



参考写真：

第2段階で31枚目の「動植綵絵」を制作する様子

\* 図版は発表者が以前実施した教育関係者向け研修会の記録写真。

学校名	中野区立第三中学校		氏名	大島 秀信			
テーマ	みんなの美術 ～感動と創造は未来を拓く～						
領域	B鑑賞	題材	「皮革レリーフ」 デザイン画の鑑賞	学年	1学年	時間	2時間

### 1 はじめに

生徒は、学習する以前に自分が意味ある存在であることを確かめたく思っており、できれば自分について何かを発信してみたいと思っている。美術教育においても、それぞれの生徒が自分について語り、また、他を受け入れていくという生徒相互のコミュニケーションが必要であると思われる。“できた作品＝自分の精一杯の姿”の良さを他者から認められる喜びを味わい、他者の作品からより良いものを求めようとする心の働きを大切にしたい。心を豊かにし情操を養うために発表を取り入れ、生徒相互の作品鑑賞が効果的であると考えている。

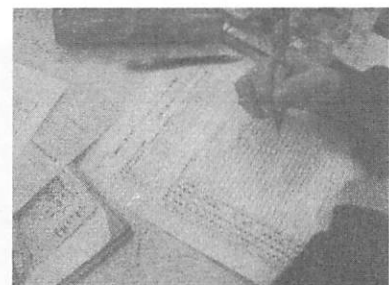
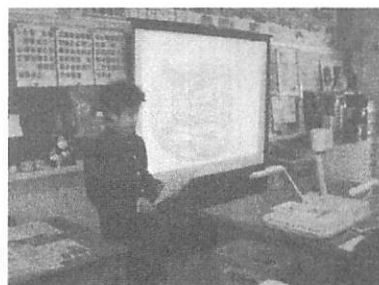
### 2 題材の目標

生徒それぞれの作品の良さや美しさ、多様な表現方法等についての理解を深め、その制作意図や表現の工夫に生徒みんなで共感し、自分自身の作品について振り返る。

### 3 題材設定のポイント

美術の鑑賞という学習は、作品を見る・知るということを通して、ものの見方・感じ方を高めていく重要な活動である。しかし、授業の中では、制作・表現活動に比べ、生徒作品や芸術作品の鑑賞等に充てる時間は少ない。

そこで、表現活動の途中に生徒相互の作品鑑賞を取り入れ、その生徒の考えを読みとる時間を計画した。その中で自分自身を振り返り、思考を広げ、感じたことを表現する力を育てられるのではないかと考え、主体的に鑑賞活動に取り組む題材として設定した。



### 4 題材の評価規準

#### (ア) 美術への関心・意欲・態度

自分の作品、また他者の作品について関心をもち、工夫しているところや美しいと感じる部分を見つけだそうとしている。

#### (イ) 発想や構想の能力

作品を鑑賞しながら感性や想像力を働かせ、作者それぞれの対象の捉え方や表現の意図を想像できる。

#### (ウ) 鑑賞の能力

作品の良さや美しさ、創造力の豊かさを味わい、自分の意見や印象を持ち、見方や感じ方を深めることができる。

## 5 指導と評価の計画（全2時間扱いの1時間目）

活動時間	学習活動	指導内容及び留意点	学習活動に即した評価基準
表現	1 ○自分の作品について振り返る。「鑑賞ワークシート」を活用する。	◆自分の作品を振り返り、工夫したことや制作意図を考えさせる。 ◆ワークシートに記入させる。	(ア)自分の作品、また他者の作品について関心を持ち、工夫しているところや美しいと感じる部分を見つけだそうとしている。 (観察、ワークシート)
鑑賞	○自分の作品について発表し、生徒作品を互いに見合う。 ○作品それぞれに感じたことをまとめる。 ○「鑑賞ワークシート」に記入し、提出する。	◆作者それぞれの思いや意図が、どのような効果を上げているのかを考えさせる。 ◆ワークシートに記入させる。	(イ)作品を鑑賞しながら感性や想像力を働かせ、作者それぞれの対象の捉え方や表現の意図を想像できる。 (観察、ワークシート)
表現	1 ○それぞれの作品について、自分が感じたことを発表し合う。 ○自分の意見や感想との類似点、相違点について考える。 →見方や感じ方を広げていく。	◆自由に感じ、気付くことのすばらしさを伝えたり、発表したことをほめるように心がける。	(イ)作品を鑑賞しながら感性や想像力を働かせ、作者それぞれの対象の捉え方や表現の意図を想像できる。 (観察、ワークシート)
鑑賞	○作品のよさや美しさ、表現方法の工夫を味わい、自分の作品をあらためて振り返る。 ○記入後、「鑑賞ワークシート」を提出する。	◆他者の意見を聞き、あらためて自分の作品を振り返り、工夫したことや制作意図を考えさせる。 ◆ワークシートに記入させる。	(ウ)作品の良さや美しさ、創造力の豊かさを味わい、自分の意見や印象を持ち、見方や感じ方を深めることができる。 (観察、ワークシート)

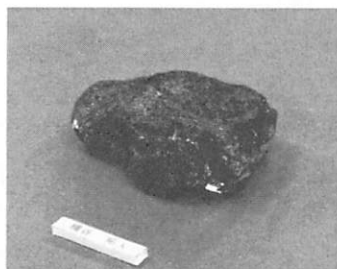
## 6 まとめ

生徒にとっては、他の作品を見ることは非常に興味深く、自分の作品に対して良いアドバイスや参考になる。また、作品制作の過程や考え方を発表し、互いの作品の良い点を見合うことで自分の作品に自信がもてるという生徒もいる。

今後も、生徒相互のコミュニケーション活動を取り入れた場面、生徒みんなで共感する時間を設定し、主体的に鑑賞活動に取り組む題材を考えていきたいと思う。

学校名	中野区立第四中学校		氏名	藤嶋 太一			
テーマ	みんなの美術 ～感動と創造は未来を拓く～						
領域	A表現	題材	紙粘土を使った彫刻 「自然物の模刻（着彩）」	学年	1 学年	時間	3 時間

【昨年度の作品例】



＜題材設定の理由＞

第一学年では生徒全員が理屈抜きに楽しく取り組めて、個々の達成感を味わうことができる題材を探した。自然物の模刻は石ころや木の枝をモデル（題材）に、それをそっくりに作るというものである。この課題を経験することでモデルをじっくり観察したり、そっくりに作るために様々な道具を工夫して使うといった美術の基礎的能力を身につけさせたい。指導要領との関連としては「2 内容」にある「(1)自然や身近なものを観察し、形や色彩の特徴や美しさなどをとらえスケッチをすること。」を立体で行うものである。

＜指導のねらい＞

- ・モデルと作品とを絶えず比較しながらモデルの本質（自分が感じ取ったモデルの特徴）に迫ろうとする態度を養い、引き出す。
- ・意図に応じた材料や用具の生かし方などの基礎的技能を身に付ける。
- ・自然物の美しさに気付き、意識するとともに、他人の視点に共感する心を養い想像する力を伸ばす。

＜単元の構成＞

1	紙粘土でモデルの形そっくりにつくる。
2	アクリルガッシュで着彩する。（本時）
3	ニスで仕上げをして鑑賞し合う。

＜準備するもの＞

紙粘土 粘土ペラ つまようじ アクリルガッシュ 歯ブラシ 新聞紙 スプレーニス  
（つや消し）トイレトペーパー 霧吹き 雑巾 発泡スチロール

<学習の展開と留意点>

	学習活動の流れ	指導上の留意点
導入 (10分)	作品・アクリルガッシュ・新聞紙等必要なものを準備する。  まずは思い思いに着彩を試みる。	アクリルガッシュが飛散するので、新聞紙を机に敷かせるよう指示をする。  机間指導を行う。
展開 (30分)	10分程度作業を続けたらいったん手を止めさせ、以下のポイントを全体で確認する。 ・よく見る ・塗り重ねる ・スパッタリングを使う ・色々な物を工夫して使う  アドバイスを踏まえて、モデルを見ながら着彩していく。	机間指導の間に工夫して作業をしている生徒を見つけておき、ポイント説明の際にその生徒から工夫したところを発言させていく形で、他の生徒に気付きを起かさせるようにする。  そっくりに作ることを追求しても良いし、観察によってモデルから得られた石らしさや木らしさを利用して「本物らしい」作品に仕上げてもよい、ということをアドバイスしていく。
まとめ (10分)	完成したものは提出場所に提出する。指示に従って絵の具を片付ける。 作業に集中できたかどうか、作業中自分はどう感じたか等を振り返る。	道具の片付けが適切にできているかどうかを見る。 モデルと自分と作品との対話ができただうかを確認する。

<評価>

関心・意欲・態度	モデルと作品を絶えず比較し、本質に迫ろうとしているか。 (前時/本時の作業時)
創造的な技能	自らの意図に応じてヘラや絵の具などの道具を使えたか。 (前時/本時/完成作品から)
鑑賞の能力	自然物の美しさに気付き、意識することができたか。また他人の視点に共感することができたか。(次回ワークシート)

学校名	中野区立中野富士見中学校		氏名	志手 伸圭			
テーマ	みんなの美術 ～感動と創造は未来を拓く～						
領域	絵画	題材	空想画	学年	3 学年	時間	8 時間

<題材設定の理由>

学習指導要領の目標に続く内容A表現の中に「ア、対象を深く見つめ感じ取ったこと、考えたこと、夢、創造や感情など、心の世界をスケッチに現す」とある。この内容には、“空想画”は適切な題材である。また、中学生の発達段階として、生徒の多くは自分なりに空想の世界に思いをめぐらすことを好む傾向があり、興味・関心を引き出すには良い題材である。この二つの理由から、この題材を設定した。

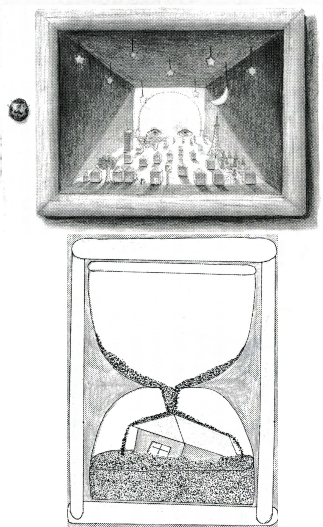
また、“空想画”とは表現のための総合的な発想力と技能が必要となる難しい課題である。感性が最も成熟している、3年生の後期の時期に設定するのが妥当だと考えた。

<指導のねらい>

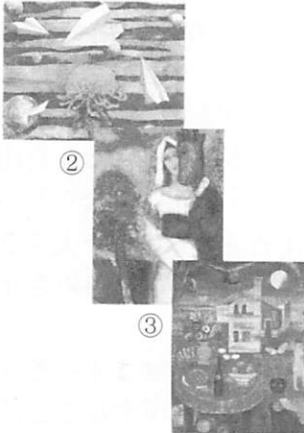
関心・意欲・態度	空想画に関心をもたせ、既成概念に捉われない自由な発想を、自分なりに表現しようとする態度を身に付ける。
発想や構想の能力	発想の視点や発想の手立てを理解し、考えたことや夢、想像から発想したことを明確にするための、様々な工夫をする能力を身に付ける。
鑑賞の能力	作品鑑賞を通して、作品の知識を得るとともに、作者の意図、表現の工夫などについて具体的に感じ取る能力を身に付ける。

<学習の展開と留意点>

(関－関心・意欲・態度 発－発想や構想の能力 鑑－鑑賞の能力)

	学習活動	◆ねらい □留意点	評価 (評価資料)
導入 (10分)	<p>ワークシート1：参考作品を鑑賞し、次のことについて考えてみよう。</p> <p>①モチーフが示すキーワードは何だろうか？</p> <p>②作品全体が表現しようとしている内容はなんだろうか？</p> 	<p>◆空想画について次のように理解させる。</p> <p>①モチーフが表現したいイメージを指し示すこと。</p> <p>②モチーフ(キーワード)の組み合わせ方で、様々なイメージが広がること。</p> <p>③見る人によって、作品のイメージは様々に変わり、そのイメージは一つではないこと。</p> <p>④空想画とは心の世界を描いた作品であること。</p> <p>⑤漠然としたイメージをスケッチを繰り返すことによって、徐々に明確にする必要があること。</p> <p>□参考作品は教科書より使用。</p> <p>・生徒作品「手の上の不死鳥」</p> <p>・生徒作品「向こうの世界」</p>	<p>①関：課題の内容を理解している。(定期考査)</p> <p>⑤鑑：参考作品から、作者の意図を感じ取ろうとしている。(ワークシート)</p>



<p>展開 1 (15分)</p>	<p>ワークシート2：①～③の3つの例に従って、具体的に発想する方法を実践(スケッチ)してみよう。</p> <p>①具体物から発想する方法 A. 異質なものを組み合わせる。 B. 質を別なものに置き換える。 C. 大きさを置き換える。</p> <p>②詩や物語から発想する方法</p> <p>③夢や想像から発想する方法</p> <p>① </p>	<p>◆ただ具体物を組み合わせるだけの単純な発想法から、最終的な目標となる空想からの発想まで段階的に発想する方法を身に付けさせる。</p> <p><input type="checkbox"/>活動時間内に終わらなかった場合は宿題とする。</p> <p><input type="checkbox"/>参考作品は資料集から使用する。 ・「菊の花の幻想」 ・シャガール「真夏の夜の夢」 ・古賀春江「素朴な月夜」</p> <p><input type="checkbox"/>課題について解説したプリント教材を作成し、内容を確認できるようにする。</p>	<p>③発：発想のための様々な手立てを理解している。 (定期考査)</p> <p>例 作品を制作するとき次のA～Cのように考えた。それぞれ①～③のうちの、どの発想方法に該当するでしょうか？ A. 紙ヒコーキと菊の花を組みあわせてみた。 B. 物語の一場面を想像して描いてみた。 C. 自分なりの夢を情景に描いてみた。</p>
<p>展開 2 (20分)</p>	<p>ワークシート3：作品の基となる様々なイメージをスケッチしよう。また、スケッチする中で資料が必要なものについてメモを取っておこう。</p>	<p>◆様々なイメージを広げ、感性を豊かにする。</p> <p><input type="checkbox"/>ワークシート2の内容を生かして発想させる。</p> <p><input type="checkbox"/>スケッチする中で資料が必要なものについて、次回の授業で用意させる (宿題：資料収集)</p> <p><input type="checkbox"/>枠を全て使い切ったら次々に用紙を渡す。</p>	<p>④発：スケッチをしながら、自由に発想し、多様なイメージをもつことができる。 (ワークシート)</p>
<p>まとめ (5分)</p>	<p>宿題「資料収集」：ワークシート3でメモを取った必要な資料を、次の授業までに準備して持ってくる。</p>	<p>◆次の授業の予告をし、次回の活動と作品制作のイメージをもたせる。</p> <p><input type="checkbox"/>資料として大きなものを学校に持ってくる場合については事前に相談する。</p>	<p>(②関：制作に必要な資料を、各自で用意することができる。) (学習ファイル) ※次の授業で評価する。</p>

<評価>

<p>関心・意欲・態度</p>	<p>①課題の内容を理解している。(定期考査) ②制作に必要な資料をもってきているか。(学習ファイル) ※次の授業で評価する。</p>
<p>発想や構想の能力</p>	<p>③発想のための様々な手立てを理解している。(定期考査) ④スケッチをしながら、自由に発想し、多様なイメージをもつことができる。(ワークシート)</p>
<p>鑑賞の能力</p>	<p>⑤参考作品から、作者の意図を感じ取ろうとしている。(ワークシート)</p>

学校名	練馬区立石神井中学校		氏名	三浦 秀樹			
テーマ	みんなの美術 ～感動と創造は未来を拓く～						
領域	絵画	題材	自画像（デッサン）	学年	2 学年	時間	3 時間

### <題材設定の理由>

美術教育において、生徒の個性を伸ばし、自信をもたせ、生き生きと自らを表現できる力を育成することは重要な課題の一つです。個性的な表現をし易い環境を整え、工夫することの楽しさ、喜びを体験させることからそうした力を育成することができると考えます。

本題材では生徒自身の最も気に入った写真をモチーフとします。思い出が詰まった写真からその頃の自分を思い出し、想像することにより柔軟な発想を促し意欲を喚起させる。服装、髪型、表情、ポーズそして色彩も自由とし、また自分の将来の姿を描いてもよいとする。自由に表現方法を判断する機会を増やすことで、自ら考え工夫し、表現する姿勢を育て、自分らしい表現をすることによってのみ味わうことができる達成感・自己肯定感を体感させることを大きなねらいとします。そこから発展させ、自らがかけがえのない存在であることの理解を深めさせていきます。

「自らがかけがえのない存在である」との認識は自分自身に自信をもたせます。そうすることにより自己の個性は普遍的で尊重されるべきものであること、個性を表現することはごく自然なことであることを理解させます。それが、個性的な表現力の育成に繋がると考え、「自画像」を題材と設定します。

### <指導のねらい>

- ・鑑賞会において、お互いに認め合うことにより制作意欲を喚起する。
- ・基本的な表現方法の確認により、学習内容の定着を図る。
- ・工夫することが個性的な表現であることに気付かせる。
- ・個性的な表現への意欲が能力の向上に繋がること気付かせる。

### <学習の展開と留意点>

学習の展開	指導上の留意点
<p><b>【導入】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の授業内容を確認する。</li> <li>・鑑賞会（班単位）： 制作意図の発表。他の生徒作品のよさや工夫を見つける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の生徒の効果的な表現を認め、制作に生かすことの大切さを理解させる。</li> </ul>
<p><b>【展開】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・彩色（色鉛筆を使用したデッサンを行う）</li> <li>・効果的な表現の方法例の提示。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・机間指導により、できるだけ多くの生徒作品を確認し、全体指導時にポイントを絞った、わかりやすい説明を行う。</li> <li>・個々の能力に応じた個別指導を行い、適切な課題を与える。</li> <li>・どんなに小さな工夫であっても、認め、褒めることにより個性的な表現への意欲を喚起する。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工夫すること、それ自体が個性的な表現であることに気付かせる。</li> </ul> <p>&lt;努力を要する生徒への手だて&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作業効率を考えず、基本的な表現方法を実際にやってみせるなどの方法を用い、粘り強い援助を行う。</li> </ul>
<p>【まとめ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・顕著な成果が見られた生徒作品の紹介。</li> <li>・本時の制作のまとめ、確認。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・代表的な表現方法、個性的な表現に着目した説明を行う。</li> <li>・意欲的な制作姿勢が、効果的な表現を生み出すことを伝える。</li> </ul>

<評 価>

【関心・意欲・態度】

構想・技巧・工夫に対する関心をもち意欲的な制作活動ができる。集中力と向上心をもって授業に取り組むことができる。

【発想と構想の能力】

モチーフを参考にした独自の発想をもとに、完成を見通し、効果的な構想を練ることができる。

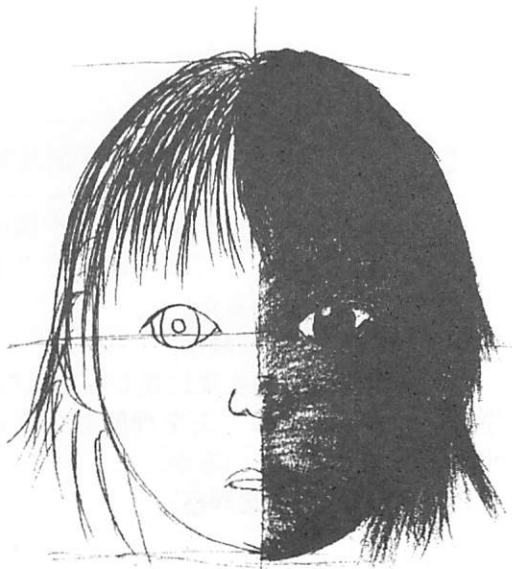
【創造的な技能】

基本的な表現方法の理解をもとに、色の濃淡による明暗・効果的な彩色ができる。

【鑑賞の能力】

自ら制作意図を説明することができ、他の作品の効果的な表現を認め、分析することができる。

<作品例>



学校名	練馬区立上石神井中学校		氏名	黒田 一三			
テーマ	みんなの美術 ～感動と創造は未来を拓く～						
領域	デザイン ・工芸	題材	ペーパークラフト ～紙から生まれる想像の世界～	学年	3 学年	時間	12 時間

### <題材設定の理由>

私たちにとって紙は古来より親しまれ、造形素材として大いに活用されてきた。折る・切る・貼る・ねじる・編むなどの可塑性がとても豊かであり、加工方法を工夫して紙特有の味わいや親しみを感じることができる。

中学校では、自由な発想による情景を絵画で表現することは多いが、紙を使って立体的に表現することは意外と少ない。箱という空間に、紙を平面・半立体・立体の自由な形で組み合わせ、自分のイメージを表現させる。生徒は紙を加工するなかで、表現方法の意外性や楽しさをあらためて発見することがとても多い。

本題材は、自由な情景を表現するなかに新たな感動が生まれ、創造の喜びが味わえるものとして設定した。

### <指導のねらい>

- 自由な情景を発想し、紙の特性や美しさを生かして表現する楽しさを知る。
- 紙の加工方法を工夫し、効果的に表現できるようにする。

### <指導の展開>

- 1 ペーパークラフトの魅力や性質を知り、立体表現の方法について理解する。 (本時)
- 2 テーマの設定とアイデアスケッチの制作
- 3 立体表現を生かした制作
- 4 互いの作品を鑑賞し合い、作品のよさや工夫を感じ取る。

### <学習の展開と留意点>

指導の展開 1 の前半 (1 時間目)

	学習活動	指導内容及び留意点	学習活動に即した評価基準
導 入	○題材の説明を聞き、参考作品を見ながらどういう活動をするのか理解する。 ○想像の世界や紙の魅力を知る。	○題材を提示する。 ○参考作品を示し、発想方法を説明する。 ○紙による立体表現の工夫を説明する。 (形の単純化や強調および紙の加工 [太鼓貼り、レリーフ、箱づくり、円錐、半球など])	○想像の世界に興味や関心をもって取り組もうとしているか。 (授業観察) ○紙の表現に親しみを持ち、その工夫を理解しようとしているか。 (授業観察)
展 開	<表現> ○与えられた課題から自分のイメージと立体表現の方法を考えて制作する。	○生徒に紙の加工方法を理解させるために、実際に課題を与えて作らせる。	○課題に対してイメージを考え、表現方法を考えようとしているか。 (授業観察、作品)

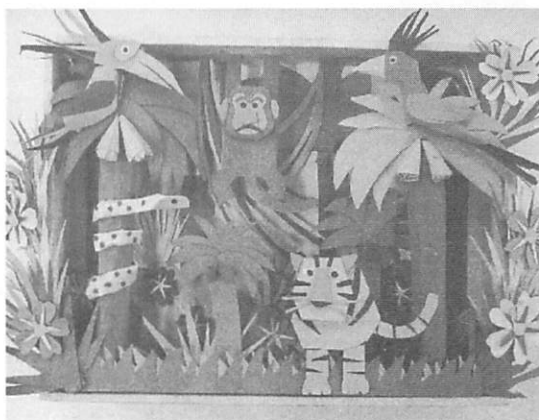
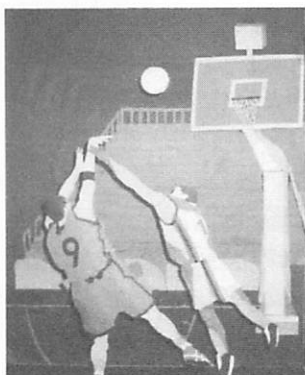
本時：指導の展開1の後半（2時間目）

展 開	<p>〈表現〉</p> <p>○紙を自由に加工しながら、自分のイメージに近づける。</p>	<p>○自由な発想で表現するように指示する。</p> <p>○机間を回りながら個別に助言する。</p>	<p>○紙の加工方法を工夫し、効果的に活かそうとしているか。 (授業観察、作品)</p>
	<p>〈鑑賞〉</p> <p>○どういうイメージで作ったかを発表する。</p> <p>○発表を聞き、感想カードに記入する。</p> <p>○他の生徒の作品から課題に対する表現の工夫を理解する。</p>	<p>○生徒を前へ出させて、作品を発表させる。</p> <p>○どういうイメージで作ったか。工夫した点はどこかに絞る。</p> <p>○同じテーマであってもそれぞれの表現の工夫に気付かせる。</p>	<p>○他の立体表現のよさや工夫を感じ取っているか。 (授業観察、感想カード)</p>

〈まとめ〉

紙を平面から立体へと起こし、それをどのように自分のイメージに近づけるかがとても難しい点である。アイデアが十分に練られてなかったり、紙を立体にする方法がしっかり理解されていないければ表現は粗雑なものになりやすい。そのためには十分な“試し”が必要となる。紙の種類や色数によっては表現や配色も工夫され楽しさも増し、遠近法を生かすことによってさらに情景に深みが出る作品となる。かなり綿密な作業に取り組む生徒もいて時間設定に難点もあるが、作っては壊し、また工夫して作っていく。何回も失敗を繰り返しながらイメージに合う形を作る過程に主体性や創造性が培われるものと考える。

〈作品例（指導の展開3）〉



〈評価〉

(ア) 美術への関心・意欲・態度

- 積極的に想像の世界をイメージして作り出そうとしているか。
- 紙に親しみを持ち、紙の性質を理解しようとしているか。

(イ) 発想・構想の能力

- テーマに沿って表現方法を考え、計画的に制作しようとしているか。

(ウ) 創造的な技能

- 紙の加工方法を理解し、立体表現を効果的に生かすことができるか。

(エ) 鑑賞の能力

- 他の作品の多様な表現のよさや工夫などを感じ取ることができるか。

学校名	杉並区立神明中学校		氏名	渋谷 里美			
テーマ	みんなの美術 ～感動と創造は未来を拓く～						
領域	デザイン ・工芸	題材	螺鈿工芸の導入とアイデアスケッチ	学年	2学年	時間	2時間

### 1. 題材設定の理由

日本人でありながら日本の文化遺産や伝統工芸品に触れることは少ない。地域的に伝統工芸品のない場所に住んでいればさらに関心もうすい。そこで、いくつかの作品を鑑賞しながら螺鈿に対しての知識を備えさせたいと考えた。奈良時代に唐から伝えられて発達した手法を学ばなかで、日本の文化遺産を大切に作る気持ちを制作することによって育てたい。

### 2. 指導のねらい

- ・用途や材料を基に、機能性と美しさのバランスがとれたデザインの構想をねること。
- ・制作の順序や方法などを考え、計画を立てること。
- ・材料や用具の特性を生かし、今の時代を表現すること

### 3. 準備する教材、教具

教材提示装置、プロジェクター、スクリーン、参考資料、小箱、螺鈿

### 4. 本時の内容

	指導内容	生徒の学習活動	教師の活動	指導上の留意点
導入 5分	授業内容の説明 ・螺鈿の概要 ・アイデアの考え方	・PCによる、参考作品を見る。	・伝統工芸品について理解させる。	・作品の知識を学ぶ。
展開 7分	・さらに作品を理解する ①重要無形文化財の北村氏の作品 ②螺鈿紫檀五弦琵琶 ③八橋蒔絵螺鈿硯箱	・見づらい座席の生徒は移動する。 ・PC利用で細部等自分なりに観察する。	・教材提示装置による作品の紹介を行う。 ・参考作品をすぐ探せるよう、机間指導を行う。	・よく観察し、どうやって作られているか理解させる。 ・多くの作品に触れ文化遺産としての価値を見出せるよう助言する。
3分	・教材を配布し、イメージを具体化させる。	・螺鈿の厚みや輝き等を実際に確かめる。	・教材の扱いに注意を促す。	・壊れやすいので、慎重にさせる。
25分	・PCを使い、アイデアを考えさせる。	・作業工程を理解する。  ・ペイントしながら色と形の組み合わせ方を考える。	・全体のイメージをつかむよう指示を出す。  ・資料などを参考にして、螺鈿のデザインを考えさせる。	・記名させる。 ・細かすぎるとカッティングができなくなることを伝える。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アイデアがまとまった生徒からプリントアウトする。</li> <li>・螺鈿を袋から出し、鉛筆で印を入れていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できた生徒から声をかける。</li> <li>・作業場所が限られているので、工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・声がかかったところに行き点検しよければプリントアウトの指示を出す。</li> <li>・丁寧に扱うよう繰り返し伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業できる図案になっているか見て助言する。</li> <li>・描き損じのないよう指示する。</li> </ul>
まとめ 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業の進行状態を確認する。 チェックシートの配布</li> <li>・チェックシート回収準備</li> <li>・プリントアウト作品の回収準備</li> <li>・プリント類回収</li> <li>・教材回収</li> <li>・次回予告</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チェックシートに記入する。</li> <li>・記入もれのないよう書き入れる。</li> <li>・名前を書く</li> <li>・後ろから2枚重ねて回収する。</li> <li>・各自前に持ってくる。</li> <li>・まだデザインが完成していない生徒は、各自仕上げしておく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス全体の進捗を把握する。 螺鈿下描き</li> <li>プリントアウト完成</li> <li>プリントアウト途中</li> <li>・確認のため声をかける。</li> <li>・再度記名したか確認する。</li> <li>・途中でも回収することを伝える。</li> <li>・教材は小箱に一まとめにさせて回収することを伝える。</li> <li>・点検後、再度配布することを伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どこに該当するか、確実に理解させる。</li> <li>・作業の遅い生徒も間に合わせるよう指示を出す。</li> <li>・記名の確認をする。</li> </ul>

アイデアスケッチ 作品例



5. 評価

- ・意欲的に作品に取り組んだか。(意欲、関心、態度)
- ・作業方法を理解し、機能性と美しさを備えたデザインを考えられたか。(発想、構想の能力)
- ・伝統工芸品のよさを理解しつつ、自分なりの表現ができたか。(創造的な技能)

学校名	中野区立第九中学校		氏名	田中 千鶴			
テーマ	みんなの美術 ～感動と創造は未来を拓く～						
領域	デザイン	題材	写真を元にしたポートレート	学年	3 学年	時間	12 時間

#### <題材設定の理由>

中学生になると、写実的な表現にあこがれをもつようになってくるが、そのような表現はできないと最初からあきらめていたり、写実表現に苦手意識をもっていたりする場合が多い。ここでは、ポートレート（肖像画）といっても、形をとらえるデッサン力を養うことや、三次元を二次元に置きかえるといった絵画の要素は割愛し、写真を元にした白黒のコピーから明度を段階に分け、モノトーンのグラデーションで人物を平面構成していく。写真（白黒のコピー）を元にして人物を描くことで、明暗の学習をし、描く喜びや自信、満足感につなげたい。


#### <指導のねらい>

- ・白と黒の配分を考えて、写真（白黒のコピー）から明度の段階を感じ取り、グラデーションを表現に生かす。
- ・画材、道具を的確に使い、作品を丁寧に正確に仕上げる。

#### <学習の展開とまとめ>

指導の流れ	主な学習の活動	指導上の留意点
○導入10分 (前の課題の最後の時間)	○課題について理解する。  ○次の授業までに、自分で作品にしたい人物を選んでその写真を探し、それを元に白黒の拡大コピーを準備する。	○参考作品を見せ、課題の説明をする。  ○作品の制作過程がわかりやすいように、参考作品の他に元になる写真、白黒の拡大コピー、明度段階を分けた線を描き込んだトレーシングペーパーを準備する。
○展開 11時間 作品制作	○白黒のコピーを元に明度の段階を感じ取り、同じ明度をもつかたまりを線で囲んでいく。  ○明度分けしたコピーの上にトレーシングペーパーを重ね、線を写し取る。  ○ケント紙の上にカーボン紙、明度分けの線を写したトレーシングペーパーの順に重ね、さらに線を転写する。	○うまくいかない生徒に配慮する。  ○コピーに描きこんだ線が見えにくい場合は赤鉛筆などを使わせる。  ○ずれないようにひと息に写すよう助言する。



	<p>○白黒のコピーを参考に中間の灰色の色作りをし、グラデーションで彩色していく。</p>  <p>&lt;明度分け&gt;      &lt;完成作品&gt;</p>	<p>○面積の広い色から塗り始め、作品の感じを早めにつかませる。</p> <p>○灰色をつくるときには、途中で足りなくならないように多めに色をつくらせる。</p> <p>○カーボン紙の線が見えないように、水を少な目に絵の具を溶いて、しっかりとぬらせる。</p> <p>○輪郭線の内側を囲むように塗り始めるよう指導し、はみ出しをさける。</p>
<p>○まとめ 30分</p>	<p>○仕上がった作品を振り返り、文章を書く。</p> <p>○作品を展示して互いに鑑賞し、相互の作品の良さを感じ取り、認め合う。</p>	<p>○制作過程を振り返らせる。</p> <p>○全体の作品を鑑賞しながら、自分の表現について反省や評価をさせる。また、友達の仕事のよいところを見つけ、今後の作品制作の中で生かすよう助言する。</p>

### <評価>

- ①題材に関心をもち、よりよい表現を目指して制作に取り組んでいるか。  
(美術への関心・意欲・態度)
- ②コピーから明度の段階を感じ取り、効果的に明度分けができたか。  
コピーを参考に、白と黒で美しく色作り(グラデーション)をすることができたか。  
(発想や構想の能力)
- ③用具を的確に使い、作品を丁寧に正確に仕上げることができたか。  
(創造的な技能)
- ④自分や友達の作品のよさや美しさを積極的に感じ取り、味わうことができたか。  
(鑑賞の能力)

### <制作を通して>

あこがれの芸能人やスポーツ選手等といった自分にとって思い入れのある人物をモチーフに選ぶことによって、途中であきらめたりせず、ねばり強く作品制作する意欲が終始見られた。生徒のほとんどは、作品のできあがり喜びや満足感を感じており、写真を元にしてはいるが、自分で作り上げた実感や達成感をもつことができたようである。選択美術を履修している生徒の中には、自ら人物を描く手法の1つとしてこの方法を取り入れ、作品制作する生徒も見られた。

学校名	練馬区立豊玉中学校		氏名	高村 輝美			
テーマ	みんなの美術 ～感動と創造は未来を拓く～						
領域	鑑賞	題材	「どこでも展覧会 -スクールミュージアム-」	学年	2 学年	時間	2 時間

**<題材設定の理由>**

今回芸術拠点形成事業の一環として、練馬区立美術館において当館所蔵の作品を鑑賞するための学習支援を目的とする教材開発（「スクール・ミュージアム」）がなされ、それにともない本校において、その教材を実践することになった。



教材内容は、美術館所蔵の作品から選ばれたさまざまなテーマと表現で描かれている日本画、洋画など 104 点のコレクションカードとそれらを A 4 と A 3 大のマグネットシートに印刷したもの、さらに専用の展示パネル（卓上サイズ用と校内展示用）で構成されており、生徒自身が展覧会作りを体験することができるようになっている。

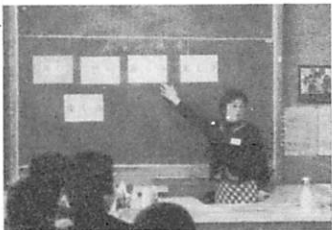
本題材は、当美術館の「常設展」や「コレクション展」の作品鑑賞にともなう事前学習だけでなく、生徒の自由な眼差しで気軽に展覧会ができ、楽しみながら所蔵作品に興味を広げ、鑑賞活動を体験する中で、鑑賞の能力（見方を広げ、感じ方を深めながら、感じ取り、読み取る力）を育成することを重視した学習活動である。





**<指導のねらい>**

開発された教材（「スクール・ミュージアム」）を使って、生徒の自由な発想を重視し、所蔵作品に興味を広げさせ、自分たちの展覧会を作ることによって鑑賞活動を楽しませることをねらいとしている。

**<学習の展開と留意点>**

	学習活動	指導上の留意点
導入 (10分間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>区立美術館のコレクションカードを一人につき1セット（104枚）配布する。</li> <li>配布されたコレクションカードに自分の名前を記名する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コレクションカードについて説明をする。</li> <li>本時の内容、手順を説明する。</li> </ul>
1時間目 展開① (40分間)	 <ul style="list-style-type: none"> <li>班（5～6名 / 班）ごとにテーマを決める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>班ごとに代表者がテーマを発表する。同じテーマを選んだ班は、くじ引きで決める。</li> </ul>

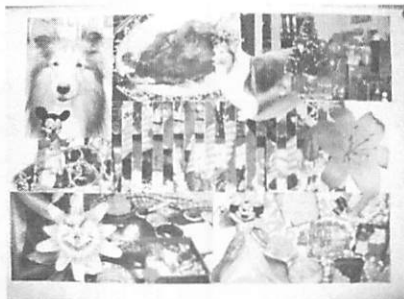
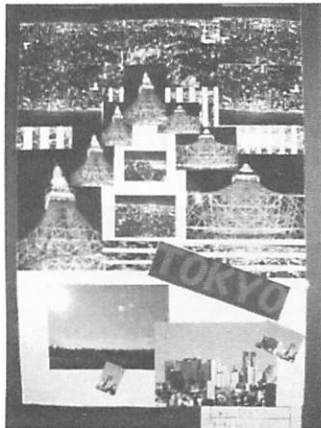
<p>1時間目</p> <p>展開① (40分間)</p>	<p>— テーマ —</p> <p>「喜び」「怒り」「哀しみ」「楽しさ」(←「喜」「怒」「哀」「楽」) 「優しさ」「切なさ」「可愛らしさ」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各班で決まったテーマに沿って、一人2～3枚ずつ、コレクションカードの中から選ぶ。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>テーマに沿って、各班6～7枚の絵に絞り込む。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>班ごとに卓上展示パネルに、テーマに沿って選ばれたカードを貼り付ける。</li> </ul>	 <ul style="list-style-type: none"> <li>各自テーマごとに選んだ理由を鑑賞プリントに記入する。(後日校内展示パネルに提示する旨を伝える)</li> <li>各自テーマごとに選んだ理由を鑑賞プリントに記入する。(後日校内展示パネルに提示する旨を伝える)</li> <li>卓上展示パネルに、後ほど発表することを考えながら、選んだカードを展示する。</li> </ul> 
	<p>2時間目</p> <p>展開② (40分間)</p> <p>まとめ (10分間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時の授業の流れを確認し、本時の内容を説明する。</li> <li>班ごとにテーマに沿って選んだ展示パネルを発表する。</li> <li>班ごとにテーマに沿って選んだ絵が重なった場合を取り上げる。</li> <li>どちらのテーマがより選ばれた絵に合っているか、意見を出し合う。</li> </ul> <p>絵の見方、感じ方は見る人によって、さまざまに良いことを確認する。</p>

< 評価 >

作者の創作活動における意図や心情、創造的な表現の工夫などを感じ取り、鑑賞する喜びを味わう。

学校名	杉並区立高南中学校		氏名	高原 都			
テーマ	みんなの美術 ～感動と創造は未来を拓く～						
領域	デザイン	題材	フォトコラージュ	学年	2 学年	時間	5 時間

〔 生徒作品例 〕



< 題材設定の理由 >

最近では、デジカメや、カメラ付携帯で気軽に写真が撮れ、パソコン機器などを使って簡単に写真がプリント出来、楽しめるようになった。プリントされた写真をただ見るだけでなく、新たな美術表現の手立てとしてアートの的に構成することによって、また違った楽しみ方ができる。デザインの技法表現授業の一環としてコラージュを写真を使って行えば、絵の具を使って仕上げる平面構成は苦手な生徒でも、気軽に画面構成を学び、楽しんで制作することができる。授業時間も少ない昨今、短時間で完成しやすく、自己の感性を自由に発揮しながら、構成での発見や完成での成就感が得られやすい。さらに、現代美術への発展性のある課題としてこの題材を設定した。

< 指導のねらい >

自己の感性を働かせて、テーマを決めて写真を撮り、工夫しながら画面構成をし、写真のイメージから発展した多様な美術表現のあり方を学ばせる。

< 学習の展開と留意点 >

課程	学 習 活 動	指導内容及び留意点	評価
導 入 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●身近なもので、美しいと感じたものについて話し合う。(ワークシートの活用)</li> <li>●フォトコラージュについての説明を聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分が美しいと感じるものを大きなテーマとして、自分の視点で考え意見を述べさせる。自然の風景、植物、人物、人工物などをいくつか参考例をあげる。</li> <li>○写真やデジカメの利用状況を聞き、確かめた上で、写真を使ってのコラージュについての課題説明をする。</li> </ul>	

<p>( ) は時間数</p>	<p>●自分がどんな写真を撮るか考える。</p> <p>●自分のテーマを決めて写真を撮る。</p>	<p>○美しいと思うテーマを決めて写真を撮るように指示する。デジカメでも、カメラでも良いこととする。</p> <p>○同じものを多角的に撮る方法や、同じ色のものを決めて撮るなど、写真の焦点をどこにしようか考えさせる。</p> <p>写真はなるべく多くあったほうがよいが、最低でも12枚はプリントするよう指示。20枚以上あると制作しやすい。(今回は台紙にA3の画用紙を使用した。)</p> <p>○写真を撮る時間が授業の中では取れにくいため宿題とする。現像して持ってくるように指示する。</p>	<p>A</p>
<p>展 開  (3)</p>	<p>●フォトコラージュについてのしくみを知る。 様々な表現方法を学ぶ。</p> <p>●現像した写真を用意して用紙に並べ、構想プランを練る。 アイデアスケッチする。</p> <p>●コラージュの効果を生かした配置を考える。</p> <p>●構想が決まったら台紙に並べ、切ったりして写真を台紙に貼っていく。</p>	<p>○フォトコラージュの参考例をあげコラージュの多様な表現方法を学ばせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・切って貼る方法。</li> <li>・方向を変えて組み合わせる方法。</li> <li>・2枚同じ内容の写真を帯状に切って交互に貼り合わせる方法。など</li> </ul> <p>○色合わせや、つなげることでの広がりや面白さや、貼り合わせることで、別の形を見出す面白さを考えさせる。また余白の効果なども伝える。(資料集使用)</p> <p>○カッター使用上の諸注意をし、帯状に切る場合の長さの統一や、並べ方の効果などについて注意を促す。</p>	<p>B  C</p>
<p>ま と め  (1)</p>	<p>●完成した作品を見て、互いに意見を交換し、鑑賞カードに感想を書かせる。</p>	<p>○互いの表現の良いところを見つけさせ、意見を述べ合わせる。様々な表現ができることを学ばせ、感想をしっかり鑑賞カードに書くように指示する。</p>	<p>D</p>

<評 価>

◆美術への関心・意欲・態度

A：フォトコラージュを理解し関心をもって取り組んでいるか。

◆発想や構想の能力

B：コラージュの特性を利用し、形の広がりや、新たな形の発見の喜び、楽しさを自分なりに工夫し構成できているか。

◆創造的な技能

C：写真を構成し、コラージュする上で、一定の丁寧さと美しさの質をもって制作しているか。

◆鑑賞の能力

D：表現の広がり、可能性を感じることが出来、友人の作品の良さを客観的に述べられ、また感想を記述できるか。

学校名	杉並区立東原中学校			氏名	林 智美		
テーマ	みんなの美術 ～感動と創造は未来を拓く～						
領域	表現・工芸	題材	削り出しによる箸制作	学年	3 学年	時間	13 時間

### 〈題材設定の理由〉

かつて、ものを作ることは、何のためという目的があり、作るべきものを計画し、それをもとに素材を活用して実現するという総合としての人間的行為であった。しかしながら、高度近代化社会は、大量消費の効率追求のため作る行為を分割させ、手仕事やそうして作られるものへの認識能力を失わせてきた。大多数のものが安易かつ安価で手に入るというこの現実、生徒たちの実生活において、自ら生み出したものを使い生活するという人間的行為を欠落させている原因となっている。

今こそ、「手の延長」である道具を手で作るという「手仕事」を通して、自ら表現する術や価値あるものを探す力を育て、人ともとの関わりについて再認識させる必要があると考える。

日本人の長い歴史が潜んでいる「箸」は、生徒たちにとっても身近な存在であり、そこから日本文化の独自性と民族の多様性について認識を深めることにもつながると考え、この題材を設定した。

### 〈指導のねらい〉

1. 表現の媒体に直接、体を使って挑み、制作を進めながら形を追求していく中で楽しさを味わわせる。
2. 表現素材の木材を、削り彫り進める作業によって、特に計画性と慎重性を養う。
3. 箸の形を多角的にイメージできるように、スケッチで確かめさせる。
4. 工具の使用、管理に危険のないよう万全を期する。
5. 日本文化について理解を深め、「用の美」への関心を向けさせる。

### 〈指導の全体計画〉

- ①・導入・箸についての説明・参考作品を示し形に対する考え方の幅を広げる（アイデアスケッチ）
- ②・デザイン決定・木材の説明
- ③・工具の取り扱い説明 ・削りの進め方の説明 ・荒削り
- ④・木についての理解・荒削り
- ⑤⑥⑦⑧⑨⑩・削りから成形 ⑪やすりがけ ⑫塗装 ⑬鑑賞と全体のまとめ

### 〈準備〉生徒～筆記用具、布（塗装用）、クロッキー帳

教師～小刀、彫刻刀、紙やすり（150番と400番）、参考資料と参考作品、生徒作品、サラダ油

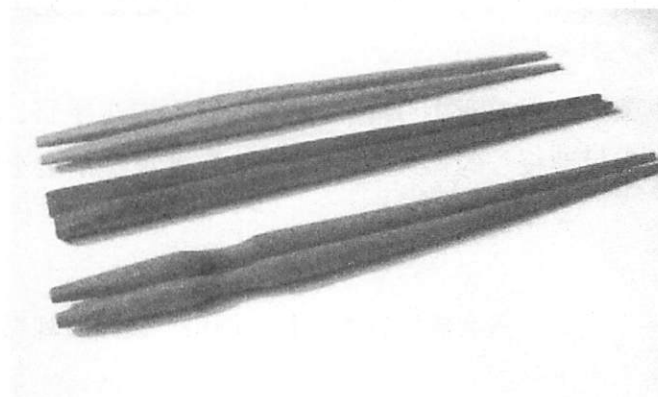
### 〈評価〉①美術への関心、意欲、態度～計画を立てて、手順を理解し、意欲的に取り組んだか。

- ②発想や構想の能力～自分が表現しようとするねらいを、もつことができたか。
- ③創造的な技能～適切な工具の使用ができる。作品の完成度。
- ④鑑賞の能力～自他の表現の違いや良さを、味わうことができたか。

### 〈まとめ〉

生徒たちの使うものへの関心は高く、意欲を持って制作に取り組んでいた。制作当初は、手元もおぼつかない生徒が多かったが、マメを作りながら木に触れて形を探していく過程を重ねるにつれて、一回り逞しくなったように思う。最高級材料を使うことは、子どものやる気を引き出す結果につながったが、塗装方法には改良の余地がある。

時間数	学 習 事 項	指導上の留意点
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 導入（題材設定の理由）</li> <li>・ 箸についての理解を深める 箸の持ち方・箸食の国・箸の機能・箸の長さ</li> <li>・ 参考作品を鑑賞する</li> <li>・ アイデアを出す クロッキー帳に原寸大でアイデアを描いていく</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の実生活を思い出させる。</li> <li>・ 自分の手にあった箸の長さを計算させる。日頃使っている箸はどうか？</li> <li>・ 参考作品や資料を提示する。形や削り方に幅のあるもの、制作意図が明確なものを見せる。</li> <li>・ （課題プリント）</li> <li>・ 制作意図や狙いをしっかりとめさせる。</li> </ul>
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アイデアを練る クロッキー帳に原寸大でアイデアを描いていき、デザインをまとめていく</li> <li>・ デザインを決定する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 細かなデザインは効果的に表現できないのでアイデア段階で生徒の考えを共有して、アイデア決定を支援していく。</li> <li>・ クロッキー帳に三面図を書かせ、3次元での理解を深める。</li> </ul>
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 木材の説明</li> <li>・ 工具の取り扱いを学ぶ</li> <li>・ 削りの進め方を学ぶ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 怪我の無いように、安全指導を徹底する。</li> <li>小刀を持って立ち歩かない、刃物と木材はしっかり持つ、鉛筆の要領で削る。机の上でなく足の間で作業する。作業している友達に話しかけない。（工具取り扱い・作業手順のプリントを用意）</li> <li>①最初に角を落とす。</li> <li>②箸を持った腕を伸ばして、箸が真っすぐか・長さ・太さは同じか等の確認。</li> <li>③2本そろえての使いよさはどうか。</li> </ul>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 成形 荒削り～細部まで</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 荒削り段階までは、木屑の量を確認させるなどして、一時間ごとの進捗を認めていく。</li> <li>・ 作業後の、掃除をしっかりとさせる。</li> <li>・ 作品管理には、名札を付けた輪ゴムを利用する。</li> <li>・ ぎりぎりの段階まで刃物で調整させる。</li> </ul>
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ やすりがけをする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 木目に沿ってやすり 240 番までかける。</li> </ul>
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 塗装する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 最初はたっぷりと塗料をしみ込ませる。つやが出るまで磨く。</li> </ul>
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>鑑賞 作品テーマや工夫した点などを発表する。ワークシートに他の生徒の作品について感想などを記入する。</li> <li>・ まとめ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発表中は適宜、生徒の考えを引き出す、整理するなどの支援を行う。</li> <li>・ 作品の良さや美しさ、努力した姿などを認めていく。</li> </ul>



## あとがき

多様化が一層進んでいく現代社会において、学校教育に対する要請も多様で広範なものになってきています。中学校教育では、着実さに加えて、柔軟性と多様性を備え、その期待に十分に答える教育の推進を図らなければなりません。今学校では、子どもたちに基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けさせ、自ら学び自ら考える力などの学力を基本とした「確かな学び」を育むことが大きな課題となっています。その中でも美術教育において、一人一人の子どもたちが個性を生かして、生涯にわたって美術を愛好して、心豊かな生活を創造してしていくことができるようにしなければなりません。その基礎となる感性や創造活動の能力を伸ばし、喜びと自信をもって生きていく意欲や夢を育む確かな指導を展開していくことが求められています。

そこで本大会のテーマである「みんなの美術～感動と創造は未来を拓く～」は、今日的な教育課題を見据え、子どもたちの未来を切り拓くこれからの美術教育を探ろうというものです。その意味でも美術教育の果たす意義は大きく、人間としての豊かな感性を育み、美しいものに素直に感動し、想像を巡らせて、自らを表現する楽しさや喜びを味わい、それが満足感や充実感を体得し、子どもたちの豊かな心を育み未来を拓くことにつながっていくものと思います。そして、生涯学習の視点に立ち、美術の活動を通して生きることの価値を見出すことができるようにすることが、美術科の果たす大きな役割と考えます。

第24回都中美大会（中野大会）は、第3ブロックの中野、杉並、練馬の各区の会員を中心に、昨年度の新宿大会の成果を踏まえて研究を続け、本日、実践発表・研究授業・作品展示等を通して公開することができました。今大会を通して、美術教育に携わる会員が、明日からの指導に少しでも生かされることを期待するものです。

終わりにになりましたが、東京都教育委員会、中野区、杉並区、練馬区の各教育委員会、東京都中学校長会、東京都中学校教育研究会、中野区立中学校長会並びに中野区立中学校教育研究会には並々ならぬご指導、ご鞭撻をいただきました。心から感謝申し上げます。さらに、会場を提供していただきました中野区立中野富士見中学校には重ねてお礼申し上げます。

また、ご講演を賜りました元文部科学省初等中等教育局視学官、現在聖徳大学児童学科教授、女子美術大学客員教授 遠藤友麗先生には貴重なご示唆を賜り心より感謝申し上げます。

大会副実行委員長 園田 俊雄（練馬区立大泉第二中学校）



— 大会運営組織一覽 —

大会会長	日野市立平山中学校長	正留 久巳
都中美事務局長	品川区立鈴ヶ森中学校	眞城 勝彦
大会実行委員長	中野区立中野富士見中学校長	牧井 直文
大会副実行委員長	練馬区立大泉第二中学校長	園田 俊雄
	杉並区立松ノ木中学校長	田中 敬二
	中野区立中野富士見中学校副校長	池田 浩二
	練馬区立光が丘第一中学校副校長	増田 裕子
	杉並区立高井戸中学校副校長	曾根 信行
実行委員会事務局長	中野区立第十一中学校	吉田 諭司
次長	中野区立中野富士見中学校	志手 伸圭
局員	練馬区立石神井東中学校	横枕 耕史
	練馬区立大泉学園中学校	千頭和正巳
	練馬区立大泉西中学校	神 毅
	練馬区立谷原中学校	井出 啓子
	杉並区立向陽中学校	朝倉 和博
	杉並区立松ノ木中学校	河田あすか
	杉並区立高南中学校	高原 都
事務局会計	中野区立北中野中学校	藤田 敦子
	杉並区立天沼中学校	青地 敏子
実行委員会研究局長	中野区立第三中学校	大島 秀信
次長	練馬区立上石神井中学校	黒田 一三
局員	中野区立第四中学校	藤嶋 太一
	練馬区立豊玉中学校	高村 輝美
	練馬区立開進第一中学校	岸崎正二郎
	練馬区立貫井中学校	佐藤 裕子
	練馬区立光が丘第三中学校	佐川 絹子
	練馬区立大泉北中学校	岩田 順子
	杉並区立大宮中学校	吉成 幹雄
	杉並区立泉南中学校	石坂 洋子
	杉並区立高円寺中学校	伊藤 信吾
	杉並区立井荻中学校	北原 昇
	杉並区立神明中学校	渋谷 里美

実行委員会編集局長	杉並区立阿佐ヶ谷中学校	井ノ口智章
次長	中野区立第一中学校	前山 宗一
局員	練馬区立豊溪中学校	大塚 基純
	練馬区立関中学校	橋川 小夜
	練馬区立大泉学園桜中学校	塗木 興一
	練馬区立光が丘第一中学校	吉村 康二
	練馬区立石神井西中学校	樋口 久
	練馬区立豊玉第二中学校	酒井智恵子
	杉並区立西宮中学校	中野 陽子
	杉並区立富士見丘中学校	別府 世通
	杉並区立井草中学校	山中 潤子
	杉並区立荻窪中学校	小高 喜一
実行委員会庶務局長	練馬区立光が丘第二中学校	江川 誠志
次長	中野区立第二中学校	佐藤 典子
局員	中野区立第九中学校	田中 千鶴
	中野区立中央中学校	青木 靖子
	練馬区立北町中学校	川口 淳一
	練馬区立石神井南中学校	今泉 良子
	練馬区立開進第四中学校	島田 信子
	練馬区立練馬中学校	善波麻里子
	練馬区立練馬東中学校	土田 俊明
	練馬区立光が丘第四中学校	前田 康夫
	練馬区立旭丘中学校	大塚 誠一
	練馬区立開進第二中学校	関 隆志
	練馬区立開進第三中学校	杉内 弘子
	練馬区立田柄中学校	樋山 玲子
	練馬区立大泉第二中学校	飯田 秀幸
	練馬区立石神井中学校	三浦 秀樹
	練馬区立大泉中学校	島方 真紀
	練馬区立三原台中学校	中山恵美代
	杉並区立東田中学校	中井 康子
	杉並区立東原中学校	林 智美
	杉並区立宮前中学校	大山 学
	杉並区立高井戸中学校	瀬川 真理
	杉並区立中瀬中学校	久積 博子

— 都中美大会開催地一覧 —

回 開催日	開催地 (会場)	大会主題 (大会副主題)
第1回 S58.11.18	品川区 品川総合教育会館	「感動を持って創り出す力を高める美術教育」
第2回 S59.11.20	府中市 府中市立教育センター	「未来を拓く人づくりをめざす美術教育」
第3回 S60.11.27~28	豊島区関プロ大会と合同大会 豊島区立千川中学校	「素材と創造者たち」
第4回 S61.10.9	中野区 中野区立第七中学校	「創作意欲をおこさせ表現力をたかめる授業の進め方」
第5回 S62.10.9	立川市 立川市立第九中学校	「崩壊か、低迷か、創造か」
第6回 S63.11.25	新宿区(都図研・都中美合同大会) 新宿区立西戸山中学校・同早稲田小学校	「想像の大地をめざして」 —伸びる・ふれあう・美術の根—
第7回 H元.10.20	北区 北区立神谷中学校	「やる気見つけた！」 —みずからの生き方につながる造形活動をめざして—
第8回 H2.11.22	新宿区 神楽坂エミール	「感動が人を創る」 —自らをたがやす生徒の育成をめざす美術教育—
第9回 H3.10.22	第5ブロック 荒川大会 荒川区立南千住第二中学校	「創るよろこび、生きるよろこび」 —今なぜ美術教育か—
第10回 H4.10.20	第6ブロック 江戸川大会 江戸川区立小松川第二中学校	「感性が輝くとき」 —今、創造の意味を考える—
第11回 H5.11.18	第7ブロック 八王子大会 八王子市立浅川中学校	「主体的表現と個性の輝きをもとめて」 —心の教育と21世紀へ向けての美術教育—
第12回 H6.10.4	本部大会 東京国立近代美術館・神楽坂エミール	「新たな美術教育の展開を求めて」 —美術館との連携と鑑賞教育の可能性—
第13回 H7.11.14	第8・9・10ブロック 北多摩大会 武蔵野市立第六中学校	「きらめく感性 あふれる創造」 —子どもが伸びる授業づくりをめざして—
第14回 H8.10.4	第1ブロック 大田区全造連・関プロ大会と合同大会 大田区民センター	「美術と環境—心の軌跡」
第15回 H10.1.22	第2ブロック 世田谷大会 世田谷美術館	「根幹と広がり」 —美術を好きになるには—立体表現を通して—
第16回 H11.1.28	第3ブロック 練馬大会 練馬区立豊玉第二中学校	「現在、美術は増殖する」 —学校から地域へ生涯へ—
第17回 H11.11.19	第11ブロック 西多摩大会 西多摩郡日の出町立大久野中学校	「地域からの発想」 —自然・伝統・生活を見つめて—
第18回 H12.11.16	第4ブロック 板橋大会 板橋区立加賀中学校	「美術の時間は発見ワールド」 —21世紀の美術は感性を呼び覚ます—
第19回 H13.11.22	第5ブロック 足立大会 足立区立第十四中学校・西新井ギャラクシティー	「豊かな感性が21世紀を創る」 —人権・共生・環境教育の原点としての美術—
第20回 H14.11.21	第6ブロック 墨田大会 墨田区立墨田中学校	「美術・生命の泉」 —わき出す想像、広がる創造—
第21回 H15.11.28	第7ブロック 八王子市全造連・関プロ大会と合同大会 八王子立長房中学校	「創ることは生きること」 —人間・さらなる成長をめざして—
第22回 H16.11.5	第1ブロック 品川大会 品川区立富士見台中学校	「観る 鑑る 未来る」 —転換期における美術教育—
第23回 H17.11.18	第2ブロック 新宿大会 新宿区立落合第2中学校	「創造は生徒を変える」
第24回 H18.11.17	第3ブロック 中野大会 中野区立中野富士見中学校	「みんなの美術」 —感動と創造は未来を拓く—

